

地区カルテ (丹波市 柏原町 崇広小学校区)

そうこう

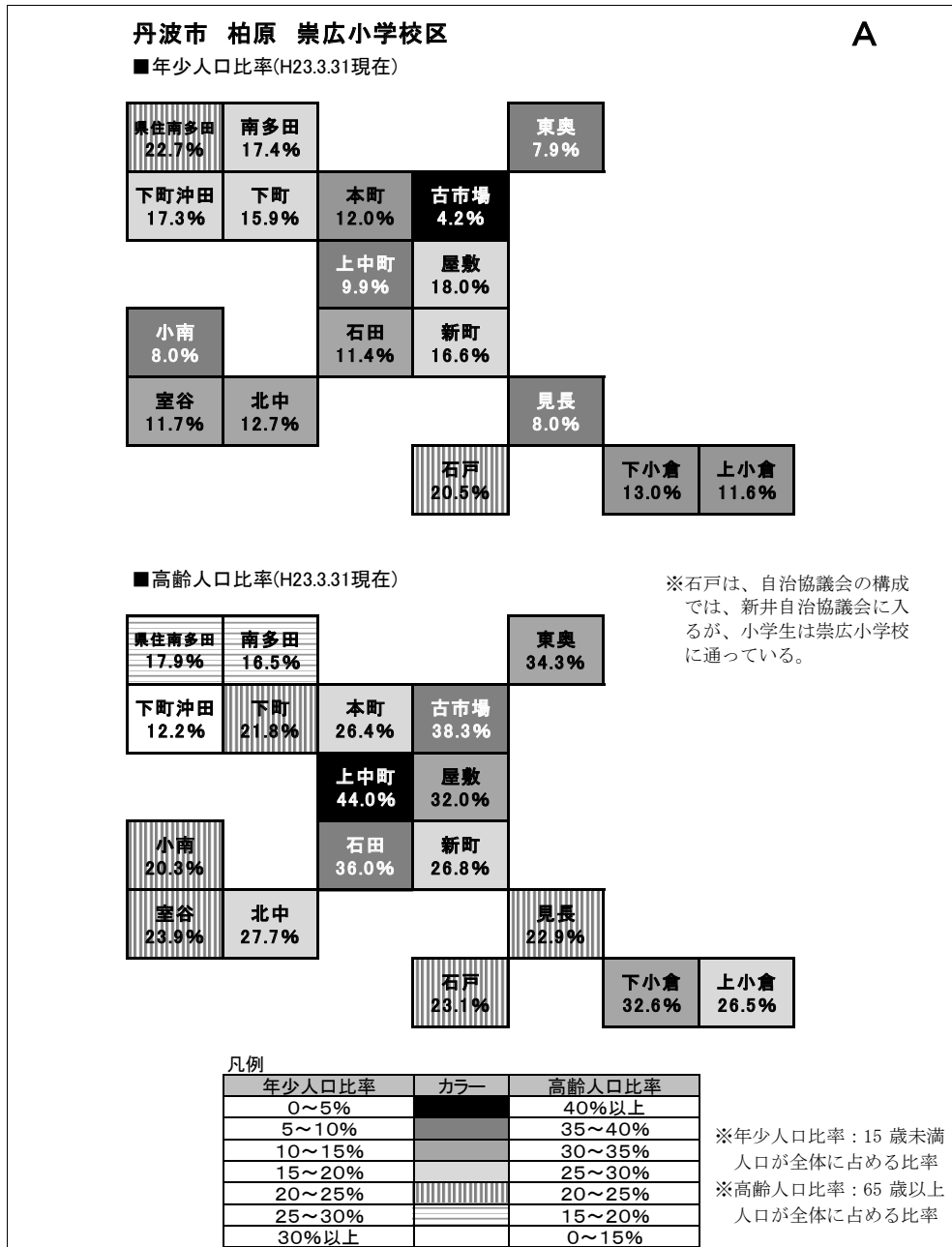
集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
17	7,780	2,989	2.60	15.0%	22.6%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市の中央東南部に位置し、総面積は21.2km²、標高（柏原支所）113mである。西は柏原町新井小学校区、北は水上町東小学校区（生郷）に接し、南は奥野々トンネルで山南町久下小学校区、及び鐘ヶ坂トンネルで篠山市に通じている。 まちなかを国道176号が通り、特急が停車するJR柏原駅を有す。駅前には丹波市各地につながるバス発着口があり、交通の結節点となっている。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 古代山陰街道の要衝として成り立ち、その後、八幡神社の門前町、織田家の城下町を経て、明治以降は国の出先機関や県柏原総合庁舎などが集積し、篠山市を含む丹波地域の行政拠点としての役割を担う。校区内には歴史の変遷を伝える資源が数多く点在する。 明治22年、旧柏原町発足。昭和30年、新井村と合併して柏原町となる。 住民感情としては、丹波市の玄関口であり中枢機能を担う意識が強い。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 車社会の進展とともに商業の中心は校区外の大型商業施設を中心としたエリアに移行。地域中心部は、商店街連合会が組織され、中小小売及びサービス業者が集積。 柏原高校生の往来は町を活気づけている。住宅供給が可能な周辺部は住宅需要が高い。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域を囲む三方の山々（清水山、譲葉山、金山など）を借景とした町並みが美しい。 地域内東北から南東へと流れる奥村川は、城下町の堀割形成に利用され、大手通沿いなど武家地内に水路が現存。山裾の美しい池（南多田の古池、大正池。東奥の藤の目池） 県天然記念物「木の根橋」：樹齢千年の大ケヤキが奥村川を跨いで奇勝を形成。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> かつて丹波市のなかで唯一の城下町として栄え、今もまちの随所でその面影を残す。 柏原藩主織田家廟所、柏原八幡神社（国重文）、柏原藩陣屋跡（国史跡）、江戸中期形成の町割（武家屋敷、町屋、狭い路地、水路他）、端麗な近代建築（市役所柏原支所、大手会館、旧制中学校舎）、金石文・句碑（織田三代碑、織田夫人碑、八幡神社の梵鐘、田ステ女句碑、小島省齋先生碑、野口雨情歌碑等）、おさんの森、まちかどギャラリー。 織田家ゆかりの城下町として、また八幡神社の厄除大祭、宵宮の奇祭「青山祭壇の儀」（日本最古の厄除神事）など、毎年約20万人が訪れる。 ソントン食品（ピーナツバター製造）発祥の地（アメリカ人宣教師J. B. ソントン氏）。
	公共・公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 市役所柏原支所、柏原住民センター、柏原歴史民俗資料館、田ステ女記念館、丹波の森公苑、法務局、裁判所、税務署、県総合庁舎、県立柏原高校、柏原中学、日赤病院、県立病院、郵便局、銀行、信金、JA、商工会館、JR柏原駅、子育て学習センター等。
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる柏原自治協議会は、校区内17自治会と、地域活動をしている19団体で構成されている。各自治会や団体での活動を尊重し、毎月の理事会で協議して取り組む事業の調整を行っている。組織形態はピラミッド型ではなく円卓型である。 事業は、丹波市共通テーマの『健康』『環境』『教育』の他に『安全』を別に区分し、「地域見回り活動」として健康ウォーキングを兼ねて町中に出て“子どもの見守り”を含めた安全・安心の地域づくりを推進している。 平成20年3月、兵庫県の「ユニバーサル社会づくり実践モデル地区」の指定を受け、翌年3月に「事業プラン」を作成、24年度にかけて事業プランを実践している。 まちなかと商店街の活性化に向け、丹波市中心市街地活性化協議会及び「まちなかづくり柏原、柏原まちづくり協議会」による様々な取り組みが進められている。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源（歴史・文化）が多いが、住民の関心が低く、周知の度合いが低く、更なる有効活用の方策が求められる。 家族、住民間のふれあう機会の減少。活動拠点の更なる有効活用と今後の維持管理。 まちづくりへ多くの住民の主体的な参画（意識改革と仕組みの確立）。
備考	・活動拠点：柏原自治会館（Tel/Fax73-0198） 2011.12.28作成	

参照資料：『柏原町誌（第1巻・第2巻・第3巻）』、『柏原伝—こころの半世紀』、『丹波市中心市街地活性化基本計画』（丹波市中心市街地活性化協議会）他

■高齢化等の状況



地区カルテ（丹波市 柏原町 新井小学校区）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
10	2,277	843	2.70	17.9%	19.3%	H23.3.31

■校区の概況

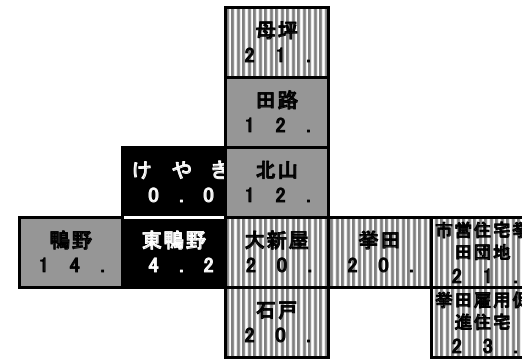
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市の中央南部に位置し、東は柏原町崇広校区、西は水上町南校区（沼貫）、北は水上町東校区（生郷）、南は山南町久下校区に接し、総面積は11.1㎏である。 交通網としては、東に国道176号、JR柏原駅、北東にJR石生駅、西に国道175号、校区中央東西に県道290号、農免道路、南北に県道291号がある。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 明治22年町村制実施の際、拳田村、大新屋村、鴨野村、北山村、田路村、母坪村をもって新井村が組織され、昭和20年の分村計画で石戸部落が生まれる。昭和30年、旧柏原町と合併して柏原町となる。 田園は古くより開かれ、肥沃な土地のために農耕が盛んに行われた。しかし低地の故に排水困難のため、先人は幾度か悩まされた。近年は改良され干田となった。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 中心地の半径2km以内に、工業団地、ショッピングセンターモール「コモレ丹波の森」、自然を体感できる「悠遊の森」、木と触れ合う「丹波年輪の里」、複合スポーツ施設「PSK（ピュアスポーツ柏原）」、石戸の観光農園などがある。 医療施設や大型商業施設に近く、住みよい環境のため、公営住宅、アパート、個人住宅が増え、若年層新住民の増加による人口微増地区である。 校区東側の国道沿いに商業施設が店舗して新しい街並み、西側には田園風景が広がる。 基幹産業として水稲を中心に、丹波の特産である山の芋、黒大豆、小豆の生産がある。 かつて兵庫県内有数のシイタケの産地でピーク時（1960年代）は約20戸の農家が約30万本の原木を栽培していたが、現在はわずか2戸にとどまる。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 春は桜、夏はホタル、秋は新井神社での大祭、城跡・紅葉など四季多彩に富む。 南西は高見城山を背にし、北東には柏原川が流れ、新井神社の三本杉など有名。 加古川の支流となる佐治川と柏原川、高谷川の合流域を有し、大雨により水害が多発。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 古墳時代後期（6世紀）の拳田古墳からは、形象埴輪や円筒埴輪が出土した。また、拳田や大新屋付近の水田には、大化の改新(645)後に実施された条里制（四角形に区切った土地）の遺構がある。 北山稲荷神社前の石づくり狐像（狛犬）は、石匠丹波佐吉と金兵衛（2代目）の作。 大新屋新法師おどり（室町時代の発祥ともいわれ、はじめは五穀豊穡を祈る踊りであったが、次第に雨乞いの踊りとなった。別名、百石踊り） 新井神社（「延喜式」に記載されている式内社として、平安時代初期の創建。県指定重要文化財の本殿には、中井権治作の一對の猿の木彫がある） 石見神社（日本一の石の大基盤、隣村との領地争いを囲碁勝負で解決を図った民話） 大新屋旧上山代官屋敷跡（平成23年景観形成重要建造物指定）・高見城跡・母坪城址。
	公共・公益・交流施設	<ul style="list-style-type: none"> 新井小学校、新井幼稚園、児童クラブ、柏原西保育所、市消防本部 丹波悠遊の森 ・ 県立丹波年輪の里 ・ PSK（複合スポーツ施設） ・ 石戸観光農園
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 新井自治協議会を中心に自治会・新山管理組合・PTA・消防団・婦人会等17団体の参画により、地域活性化の取組みが進む。活動拠点は、北山ふれあいセンター。 内容：夏まつり、運動会、囲碁ボール、伝統文化子ども教室、防犯活動、防災訓練など。 県民交流広場事業や地域づくり事業を活用して、都市と農村の共生、地域内の新旧住民の交流を目指す。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進行に伴う農業従事者の高齢化と後継者不足（遊休農地の増加、山林の手入れ不足）、地域活動の担い手不足、集落機能の低下。 新旧住民の交流による地域の一体感の醸成（新住民の地域活動への関心低い）。
備考	・活動拠点：北山ふれあいセンター Tel 72-2818 http://www.niinosato.jp/ 2011.12.28 作成	

■高齢化等の状況

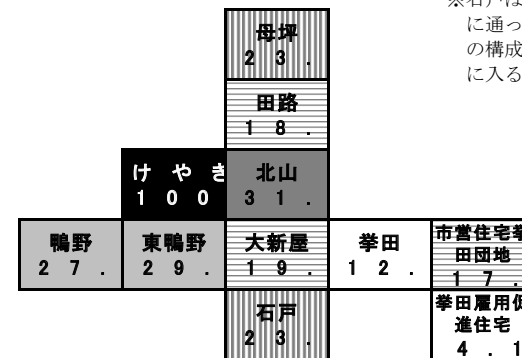
丹波市 柏原 新井小学校区

B

■年少人口比率（H23.3.31現在）



■高齢人口比率（H23.3.31現在）



※石戸は、小学生は崇広小学校に通っているが、自治協議会の構成では、新井自治協議会に入る。

凡例

年少人口比率	カラ	高齢人口比率
0～5%		40%以下
5～10%		35～40%
10～15%		30～35%
15～20%		25～30%
20～25%		20～25%
25～30%		15～20%
30%以上		0～15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ (丹波市 氷上町 中央小学校区)

ちゅうおう

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
21	4,624	1,576	2.93	14.6%	24.5%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市氷上地域のほぼ中央にあり、東経135度1分、北緯35度10分に位置する。 南北に広がり地域の東西南北で生郷・葛野・沼貫・幸世地区にそれぞれ隣接している。 北近畿豊岡自動車道の最寄り氷上ICにより、春日・和田山JCTに連絡する。 東西に県道主要地方道丹波加美線と南北に一般県道福知山山南線が縦横断している。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 「成松」という地名は、徳治元年(1306年)の鎌倉円覚寺文書に現れ、鎌倉末期には呼ばれていたと思われる。 明治22年に成松村、大正元年に成松町、昭和30年7月23日を期して、5ヶ町村が合併して「成松町」を閉じ「氷上町」として発足した。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 中世以降、但馬街道、京街道、杉原街道、さらには佐治川水運の起点である本郷舟座を近くに控え、水陸交通と物資集散の要衝、商業のまちとして栄えた。 近年では、地区の中心部では、店舗の閉鎖、大型商業施設への出店等による空洞化が進行している。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中心に甲賀山があり、並ぶようにして明治山(大岡山)、北側には安全山がある。 甲賀山は、平安の昔には高岡山と呼ばれ、和歌にも詠まれたほどの景勝の小丘。戦国末期頃には甲賀の土が磐を構えたことから、甲賀山として近隣の人々に親しまれている。 珍しいトゲウオの淡水魚「ミナミトミヨ」の絶滅の地(最終個体生息の地)。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 300年以上も続く「愛宕祭」は、江戸時代中期、飢饉や大火事が続き、京都の愛宕神社を分社して「造り物」をお供えすることから始まった。「造り物」は、市の無形民俗文化財に認定されている。また、祭りに合わせて行われる花火大会も大正8年(1919年)以来続く名物行事である。「盆踊り」も引き継がれ現在に至る。 大正の時代には、市内有数の繁華街であったことから、映画劇場として「成松クラブ戎座」が建設、改造後は「成松映画劇場」として、また、宮前には昭和25年に「エビス館」が建設され、娯楽機関として近隣住民に親しまれた。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市役所本庁舎、氷上住民センター、氷上保健センター、健康福祉センター、中央図書館、植野記念美術館、小・中学校、保育園、こうがやま児童館、郵便局、丹波市商工会・社会福祉協議会・シルバー人材センターの本所、水防センターなど
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 中央地区自治振興会：地域の人々の交流、地域の活性化、安心で安全な面識社会を構築するために、校区内28団体が地域づくり事業に参画し、活動している。 ※中央地区運動会・地域の祭(えびす祭・愛宕祭・川裾祭・秋祭・厄神祭など)・ラジオ体操会・ウォークラリー大会・コンサート開催(ゴスペルコンサート)・里山の整備・高齢者お昼のつどい・ふれあいサロン・平成たんば塾・中央かわら版の発行など 成松造り物保存会：市の無形民俗文化財保持団体に認定。記録保存や継承に力を入れている。奈良県橿原市八木地区と交流。 関西大学建築学部(江川直樹環境都市工学部建築学科教授)：関西大学のグループで「伝統を守りつつ、新しい風を吹き込みたい」との趣旨で活動に参加している。 甲賀の里森づくり協議会：丹波県民局「企業の森づくり事業」の一環で、甲賀山の山林でふもとの企業、東洋電機と地元が協働してサクラ並木の復活や森林保全に取り組む。(平成23年6月15日協定書締結) 絵画、手芸、合唱、書道、茶道、華道など文化活動やボランティア活動も活発である。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 地区中心部(中心市街地)の地域活力の維持・増進 生きがいがづくり・地域全体を支える意識づくり・防災・防犯(子どもから高齢者など地域に住むすべての住民が健康で、安全で安心して暮らせる地域づくり) 新旧住民や世代間の交流の促進による「地域一体感」の醸成
備考	<ul style="list-style-type: none"> 「地域は家族」をキャッチフレーズに地域づくりを展開中。テーマは、H19～H22「知」H23～「繋」 <p style="text-align: right;">2011.12.28 作成</p>	

■高齢化等の状況

丹波市 氷上 中央小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)

					常楽 15.7%	
					新田 16.1%	
県住 22.9%	北町 9.9%	中央通 14.0%	上町 11.4%	宮前 16.0%	八幡町 25.0%	西中北東 12.5%
		成松新町 9.7%	中町 11.3%	東町 12.8%	西中北西 15.5%	西中東 10.6%
		西町 10.3%	下町 9.6%		西中西 14.9%	
			上成松 14.8%		西中南 17.9%	
			黒田 12.0%		犬岡 13.4%	

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

					常楽 21.7%	
					新田 33.3%	
県住 8.7%	北町 28.0%	中央通 38.6%	上町 37.1%	宮前 36.0%	八幡町 50.0%	西中北東 29.3%
		成松新町 43.5%	中町 30.2%	東町 33.8%	西中北西 21.3%	西中東 29.2%
		西町 30.9%	下町 42.6%		西中西 25.8%	
			上成松 21.3%		西中南 13.3%	
			黒田 30.0%		犬岡 30.6%	

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%		40%以上
5～10%		35～40%
10～15%		30～35%
15～20%		25～30%
20～25%		20～25%
25～30%		15～20%
30%以上		0～15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

C

地区カルテ（丹波市 氷上町 ^{ひがし}東 ^{いくさと}小学校区〈生郷〉）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
11	4,379	1,587	2.76	16.7%	22.4%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市のほぼ中東部（氷上町の東端）に位置し、城山を挟んで、東部はJR 福知山線石生駅を中心に7自治会、西部は4自治会が国道175号、176号、県道沿いに連なっている。 北近畿豊岡自動車道の氷上インターを有し、山陰・山陽への交通の要衝となっている。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 市辺遺跡の発掘により、古くは奈良時代に氷上郡衙郡庁が置かれた地の可能性があり、古来より経済・文化・交通・軍事の地域の中核拠点であった。そのため江戸時代には、勢力分散を意図とした、大名、旗本、天領に細かく分散統治が続く。 明治22年に、東部は石生・北野・大崎の3ヶ村が一体となって（石生村）、西部は本郷・稲継・横田・市辺の4ヶ村をもって（本郷村）と定められ、更に明治40年、（生郷村）として合併した。その後、昭和30年、旧成松町・沼貴村・葛野村・幸世村・生郷村の5ヶ町村が合併し、氷上町東地区になった。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 古くより、交通の利便性を活用した商工業、サービス業と農業が混在する地域であり、それに伴い開業医、金融機関も多い。 現在、石生市街地（商店街）は、寂れるも、地区内には大型店舗や多数のチェーン店があり、生活の利便性は市内でも高い水準にある。 石生駅西側において、組合施行による土地区画整理事業を実施、分譲中。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 地区内には、本州一標高の低い中央分水界（石生新町交差点あたりで95.45m、分水点延長約1,250m）があり、氷上回廊（ひかみかいろう）は、水分橋付近を南北に通る低地帯で、日本列島の脊梁を成す中央分水嶺を、わずかに標高約95mで通り抜けられる、山地に挟まれた「回廊」地形である。 太古の昔から、南北の生き物が交流するルート（回廊）であり、多様な文化の通う路でもあったことから、氷上回廊と名づけられた。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> いそべ神社大祭（流鏝馬、神輿）一万度参り（雨乞い）、本郷川裾まつり、石生川裾まつり（現水分祭りへ移行）、横田の夜泣き井戸、加古川沿いの本郷舟屋、意春の経塚、高谷川沿いの桜並木（桜トンネル）ウォーキングトレイルと、その要所のいわれを解説したパネルがある。 本郷口あたりにあずきあらい他妖怪伝説あり
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、保育園、児童館、生郷交流会館、駐在所、観光協会氷上支部 郵便局（石生、市辺）、JA丹波ひかみ本店、生郷支店、中兵庫信用金庫石生支店 JR福知山線石生駅、北近畿豊岡自動車道の氷上インター
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生郷自治振興会：自治会と校区内各種団体で構成 県民交流広場事業、森林林業緊急整備事業、丹波市地域づくり事業などの受け皿として、生郷交流施設の新築整備、水分公園を会場に春の桜まつり、夏の水分祭りを主体実施 石生区：石生駅を中心にした市街地を構成する4自治会（いそべ神社氏子）で構成 いそべ神社大祭、その他石生全体の自治に取り組む スポーツクラブ21氷上東：設立時（H12）当時から、ビジョンを持ち、スポーツだけに限らず文化、ボランティア活動も実践している。 生郷倶楽部：地区内旧商工会メンバーを中心に構成された地域づくり関係団体
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ丹波市の中心に位置し、交通の利便性から、新興住宅地が増え、市内でも数少ない人口増加地域であるが、新旧住民の交流が希薄。旧住民においても住宅地のドーナツ化やサラリーマン化に伴いコミュニティ意識が低下している。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 生郷交流会館：0795 - 82 - 2666 ikusato.js@zeus.eonet.ne.jp 	

2011.12.28 作成

■高齢化等の状況

丹波市 氷上 東小学校区

D

■年少人口比率(H23.3.31現在)

		大崎 9.2%	北野 18.6%
市辺 15.2%			地頭 16.4%
本郷 10.8%		サンコーポラス 36.4%	領町 16.3%
稲継 9.3%	横田 17.4%	石生新町 17.0%	南町 19.8%

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

		大崎 24.8%	北野 21.6%
市辺 22.9%			地頭 25.6%
本郷 29.9%		サンコーポラス 1.9%	領町 24.6%
稲継 30.4%	横田 18.2%	石生新町 24.9%	南町 14.6%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%		40%以上
5～10%		35～40%
10～15%		30～35%
15～20%		25～30%
20～25%		20～25%
25～30%		15～20%
30%以上		0～15%

地区カルテ（丹波市 氷上町 ^{にし}西小学校区^{かどの}<葛野>）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
11	2,566	836	3.07	13.4%	26.6%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 葛野地区(西小学校区)は丹波市の西部に位置し、東の成松地区を除きいずれも山岳界となっており、葛野川左右両岸に11集落が点在している。 県道78号丹波加美線が東西に伸びており、唯一の丹波市中心地へ結ぶ主要道路となっている。現在、氷上町三原から多可町加美区清水まで結ぶトンネルやアプローチ道路が建設中である。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 明治22年の町村制以前は付近18部落から成り立ち、古くから葛野庄と称せられ、その名のように葛の葉が叢がる開墾の難しい山村地域であったことから「葛野」の由来となっている。（「葛野牧」が東寺領であった。）
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 林業、養蚕、煙草などで栄えたが、現在はほとんどが水稻中心兼業農家であり、営農への集約化や観光客誘致など都市との交流を図っている。 公共交通(バス)はなく、買物・福祉・医療などは丹波市中心地への依存度が高い。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 葛野川の源流となる溪谷・ゲンジホテル・ヒメホテル 西日本では珍しい「カタクリの群生地」や休耕田を利用した「コスモス園」 内尾神社参道の杉並木 関西池田記念墓地公園内の桜並木
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 上新庄式三番叟(天満神社の神事芸能として継承)、中野奴行列(総社内尾神社の祭礼神幸の露払として伝承)、達身寺(丹波の正倉院と呼ばれ、神秘的な仏像の宝庫)、内尾神社(葛野庄18ヶ村の総社)、三方の大カツラ(幹は根元で12本に分立した大木)
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 交流会館「かどの郷」、休養施設「やすら樹」、氷上総合グラウンド、市営住宅「大谷団地」、西小学校、西幼稚園、葛野保育園、葛野郵便局、丹波ひかみ森林組合
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 葛野報徳自治振興会を中心に自治会、老人会、PTA、商工会、消防団、葛野ASC、農産物生産者グループなど多くの団体の参画により地域の活性化と福祉増進活動に取り組んでいる。 活動内容として、健康分野では健康講座、太極拳教室、スポーツ21事業などを実施している。また、文化教養分野では日本舞踊、大正琴教室、パソコン、カラオケ教室、しめ縄づくり教室等々を実施し、環境分野では里山環境体験学習、子供見守りパトロール、防犯パトロールなどを実施している。 県民交流広場事業を活用し、遊休農地を利用した「ふれあい貸農園」の整備や里山を有効利用した「しいたけ栽培」を手掛けている。 情報広報誌を定期的に発行し、交流会館広場では〇周年記念まつり、かどの冬まつり、農産物フェアなど、地域住民が一同に参加できるイベントも開催している。 各集落単位では、一村(集落)で活性化事業の計画を行い、特産品づくりや都市との交流事業を実施しているところである。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 交流会館には農産物直売施設を既設しているが、販売を前提した施設内容であるため手狭であり、農業体験をテーマとしたツーリズムでの交流の場が求められている。 地域資源を有効に活用するため、単発的な取り組みでなく地域内の活動と関連させ、通年的な取り組みへ発展させていかなければならない。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 交流会館「かどの郷」を市の指定管理を受け、地域の活動拠点施設として運営している。また、休養施設「やすら樹」についても、(株)かどのを設立することで指定管理を受け、運営業務に携わっている。 	

2011.12.28 作成

■高齢化等の状況

丹波市 氷上 西小学校区

E

■年少人口比率(H23.3.31現在)

三方 11.7%	中 5.5%	清住 14.7%			
	中野 13.2%	上新庄 12.9%	下新庄 13.6%		
	三原 13.4%	大谷 21.4%	長野 17.8%	柿柴 13.2%	柿柴東 7.3%

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

三方 31.8%	中 34.1%	清住 30.6%			
	中野 22.0%	上新庄 27.6%	下新庄 23.0%		
	三原 22.3%	大谷 19.6%	長野 26.0%	柿柴 29.2%	柿柴東 24.9%

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	■	40%以上
5~10%	■	35~40%
10~15%	■	30~35%
15~20%	■	25~30%
20~25%	■	20~25%
25~30%	■	15~20%
30%以上	■	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ（丹波市 ^{みなみ}氷上町 ^{ぬぬき}南小学校区〈沼貫〉）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
9	2,809	942	2.98	13.0%	27.8%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市西南部にあり、東は生郷、新井の各地区、西は多可町及び和田地区、南は和田地区、北は中央地区に接している。 東西が山に覆われ、その裾野に集落を形成し、9自治会で構成されている。 周辺を結ぶ道路交通網は、東部加古川東岸に沿い、山麓を縫って南北に国道175号、西部加古川西岸に沿い西部山麓を南北に走る県道109号福知山山南線がある。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 古来この地は「沼貫の庄」と呼ばれ、古文獻に奴々伎、布木、貫木、沼木等の文字が用いられている場合もある。沼貫の語源は、地域一帯が古代には大沼湖であったが後世これを干拓して美田にした「湖沼開拓説」と、水郷の意であったすなわち水量豊富な地域をいう「沼城（ぬのき）説」の諸説がある。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 農業が盛んであり、地区の中央には一級河川加古川が流れて、その周辺には平成2年に県営圃場整備が完了し、自然豊かな田園風景を保っている。 県に指定された採集圃場がある。 ・丹波の特産丹波栗の福田観光栗園がある。 北部には新興住宅が多く建設され、地区住民の2割程度がIターンの住民である。 特別養護老人ホーム「松寿園」と養護老人ホーム「青葉荘」があり、氷上地域の高齢者の福祉と介護の拠点を担う。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 東西に山岳深くかつ高く連立し、両山脈ともにほとんど急傾斜である。 耕地及び集落はこの両山脈に挟まれて、概して平坦に狭く南北に拓けている。 北に高く、南に低く、緩傾斜をもって成松（北方）、和田（南方）耕地に連なっており、この耕地の間の加古川が北より南に波状の屈曲を見せて貫流して、耕地を潤している。 佐野鳥獣保護区〔佐野〕
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 稲畑人形〔稲畑〕、新発意踊（しんぼちおどり）〔谷村・伊尼神社〕、西方大神楽〔新郷・伊尼神社〕、エイワの祭事〔小野・天満神社〕、式三番叟（しきさんばそう）〔稲畑・奴々伎神社〕、三番叟（さんばそう）〔佐野・矢降神社〕、下油利群集墳十五基〔下油利〕、修羅（しゅら）〔稲畑・奴々伎神社〕
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 南保健福祉会館、南小学校、南幼稚園、南保育園、沼貫郵便局
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 沼貫地区自治振興会：自治振興会の執行機関として、正副自治振興会長、自治会長、専門部会長、市会議員などで役員会を構成するとともに、地区内の各種団体の長や地区内選出の公的機関の役員などで理事会を組織し、健康・環境・教育を主眼におき地域活動を行う。 これまでの活動：《健康》区民運動会／区民ハイキング／健康教室など、《環境》沼貫ふるさとまつり／地区内防災調査及び防災マップの作成と防災に関する住民啓発／地域防災研修会など、《教育》地域内の小学4年生以上と地域住民を対象としての人権学習の実施／地区内の情報発信として広報誌「ぬぬぎ」の発刊（年4回）など 小規模集落元気作戦モデル集落〔福田〕、地域づくり整備事業特別委員会の設置。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 保育園、幼稚園の統合（認定こども園）。 ・加古川改修に伴う内水対策。 活動拠点施設である南保健福祉会館の譲与期間の延長。 ・国県道等の歩道の設置。 振興住宅の増加による地域住民のコミュニティの希薄化。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 活動拠点施設「南保健福祉会館」 TEL82-4033 	

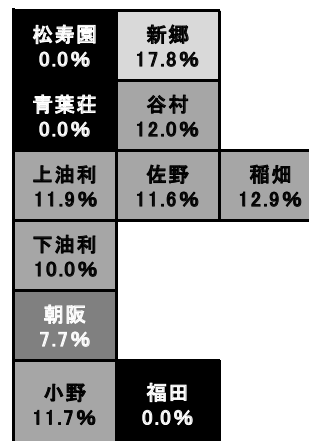
2011.12.28 作成

■高齢化等の状況

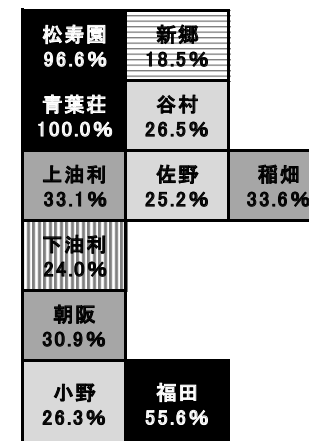
丹波市 氷上 南小学校区

F

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%		40%以上
5～10%		35～40%
10～15%		30～35%
15～20%		25～30%
20～25%		20～25%
25～30%		15～20%
30%以上		0～15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ（丹波市 氷上町 北小学校区〈幸世〉）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
18	4,138	1,379	3.00	13.9%	30.7%	H23.3.31

■校区の概況

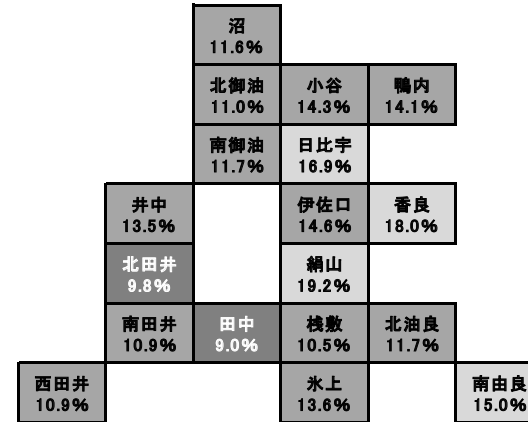
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市氷上町の北東端に位置し、南北に流れる加古川を中心に、東側に10集落、西側に8集落があり、南北に開けた地区である。 加古川東側に柏原から青垣に、西側に成松から青垣に抜ける市道があり、北御油・沼自治会で合流する。 JR石生、柏原駅から、北小学校や大塚病院のある絹山まで、路線バスで約25分。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 古くから、大和と出雲の交流地帯として開け、平安時代には京都加茂の荘園として発達。 明治22年町村制で由良村となるが、村名論議の末、地区内どこの地名にも関係ない幸世（幸せな理想郷）となる。その後、昭和30年、旧成松町・沼貫村・葛野村・幸世村・生郷村の5ヶ町村が合併し、氷上町北地区になる。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 農業が主体で北御油営農組合等の組織が蕎麦や枝豆づくりで都市部と交流している。 JAライスセンター、その他精密機器等製造工場、製材業 大塚病院・氷上シルバーステイ、香良病院、歯科開業医、氷上斎場、充実した福祉医療
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 南北に流れる加古川の東西に田園地帯が広がり、山沿いに集落が点在している。 北小学校側の加古川では、バイカモの群生が見られ、年1回開かれる水辺の楽校で、子どもたちを中心に自然学習の機会がもたれている。 市島前山地区と接する五台山で、前山地区との交流イベント「五台山まつり」も開催。
	歴史・文化	<p>上記成り立ちの通り、古くから開けた地域であり、</p> <ul style="list-style-type: none"> 独鈷の滝は弘法大師が独鈷を投じて蛇身を成仏させたと伝えられている。 岩滝寺（香良）は、弘法大師の開基による嵯峨天皇の勅願所である。 足利尊氏の第四子英仲禅師の開山の曹洞宗中本山円通寺は、紅葉の名所でもある（御油）など、歴史的な古寺がある。氷上城址（波多野宗高）
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、認定子ども園、郵便局（幸世、沼）、幸世交流会館、JA丹波ひかみ幸世店、大師の杜ホール（体育館）、市立氷上斎場、駐在所（氷上、幸世、沼）
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 幸世自治振興会：自治会と校区内各種団体で構成 県民交流広場事業、森林林業緊急整備事業、丹波市地域づくり事業などの受け皿として、幸世交流施設の新築整備、北つ子を育む校区事業や五台山まつりを主体実施。 各自治会（18）：自治会員を対象にした生涯学習活動の実施。 幸風会：阪神淡路大震災を契機に組織された壮年層の地域づくり活動団体で、幸世自治振興会の協力団体として、上記北つ子を育む校区事業など、事業の企画運営実施。 スポーツクラブ21氷上北と幸世体育振興会 幸世地域で行われる市民運動会やスポーツイベントの企画運営と実施。 各種スポーツ団体の総括等
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化率は30.7%（丹波市の高齢化率27.7%）と、市内でも高齢化の進んだ地域であるため、高齢者を地域全体でささえる仕組みづくりが必要である。 地形的にも加古川を挟んで東西に分かれた自治会配置となっており、地域の一体感の醸成が必要である。 少子化に伴い20年、30年先、この地域に残る、帰る若者を増やすため、今の子どもに地域を愛する心を養うふるさと教育（地域を知り愛着を深める）が必要である。
備考	・幸世交流施設：0795-82-5038 2011.12.28 作成	

■高齢化等の状況

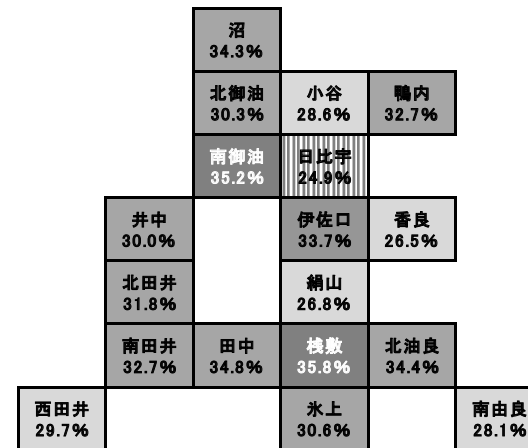
丹波市 氷上 北小学校区

G

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	■	40%以上
5~10%	■	35~40%
10~15%	■	30~35%
15~20%	■	25~30%
20~25%	■	20~25%
25~30%	■	15~20%
30%以上	■	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ (丹波市 青垣町 佐治小学校区)

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
22	2,372	829	2.86	14.6%	26.2%	H23.3.31

■概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市青垣町の中心地にあり、宿場町の面影を偲ぼせる街並みの区域と、加古川を挟んで東西に農村区域が連なり、町と村が混在した地区である。 旧商店街は廃業している商店が多い。 JR 柏原駅に向けてのバスが日に9本あるが、交通手段は主に自動車である。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 古くから山陰道への要衝宿場町として栄え、明治年間には製糸工場が林立し、郡内の金融の中心地とまで言われたが、明治末期の世界大恐慌で壊滅の道を歩む。 大正10年に町制実施。警察署、裁判所、変電所、銀行など官公共の機関が集まり、氷上郡北の要所としてにぎわった。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 昭和50年以降佐治商店街は急速に衰退した。 市役所青垣支所、診療所、住民センター、JA、店舗などが集中している。 青垣工業団地には照明器具と金属加工の2社があるが、不況で休業している会社や未立地の用地がある。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 岩屋山でのパラグライダーフライト場は全国の愛好者から親しまれている。 区域の中心を加古川が流れている。しかし、青垣地域の森林の大半が人工林であるために山に保水能力がなく、河川は夏期には水がなくなってしまう。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 青垣翁三番叢(国指定選択芸能)は村人たちが五穀豊穡、天下泰平を祈って室町時代から続けられている民俗舞である。・丹波布(国指定重要民俗文化財)は明治末期まで農家で織られていた。今、丹波布伝承館で手紬糸を栗の皮やこぶな草などで染め手織りし、後継者育成をしている。・小島省齋(1804~1884)佐治生まれ、苦学し柏原藩で経済学を司った。竹西亭は佐治での塾舎となっていた。・県指定有形文化財の朝倉邸(民俗資料館)は江戸中期の養蚕農家であった。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園、小学校、中学校、高校、診療所、住民センター、市役所青垣支所、スーパー、森林動物センター、JA、銀行など生活便利施設がある。
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年6月に校区のコミュニティ活動の活性化を図るために佐治自治協議会を設立した。また平成21年4月に拠点施設「来楽館」(きらくかん)を建設した。ここを拠点として世代間の交流と高齢者の生きがいがづくりのため、様々な取り組みをしている。 さじっ子まつり、昔遊び伝承事業、パソコン教室、グラウンドゴルフ大会、囲碁大会、盆栽教室などを行っている。 関西大学佐治スタジオでは、地域住民と共にまちづくり活動を行っている。 8月のお盆には例年佐治川まつりを行い、地区外からもたくさんの方の参加がある。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 町の区域と農村の区域が混在しており、双方が感動を共有できる取り組みをどのように進めるか、課題がある。 参加自治会が22と多く、特に中央部では1自治会あたりの人数が100人を下回り、高齢化率も30%と高く、日常の活動が低迷している。 商店街はかつての賑わいがなくなり、10軒余りが商売を続けている。入り妻形式の古い家並が残っており、これを活用し宿場町飛脚りレーや丹波布祭りなどを行う中で、かつての宿場町としての賑わいが取り戻せないか、苦慮している。
備考	2011.12.28作成	

■高齢化等の状況

丹波市 青垣 佐治小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)

					寺内 13.9%	奥塩久 15.5%
	大箕 24.1%			小倉 16.4%	ウリウト 31.5%	矢の内 6.1%
岩本 9.9%	市原 15.5%	大正町 14.1%	県住佐治 46.8%	旭町 23.5%	小和田 12.5%	沢野 10.9%
森 9.6%	本町 9.4%	上町 12.3%	荒神町 9.4%	愛宕町 4.2%	東町 5.1%	
			中町 9.2%	新町 18.4%	新川町 15.2%	

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

					寺内 34.7%	奥塩久 25.9%
	大箕 19.3%			小倉 21.2%	ウリウト 3.7%	矢の内 27.3%
岩本 26.8%	市原 27.0%	大正町 28.9%	県住佐治 4.8%	旭町 10.8%	小和田 18.8%	沢野 26.9%
森 31.3%	本町 31.3%	上町 29.6%	荒神町 32.9%	愛宕町 45.8%	東町 38.5%	
			中町 35.9%	新町 29.5%	新川町 24.2%	

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	黒	40%以上
5~10%	黒	35~40%
10~15%	黒	30~35%
15~20%	黒	25~30%
20~25%	黒	20~25%
25~30%	黒	15~20%
30%以上	黒	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ (丹波市 青垣町 芦田小学校区)

あしだ

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
6	1,801	623	2.89	10.9%	30.0%	H23.3.31 現在

■概況

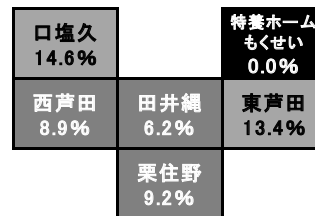
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市青垣町の南部に位置し、氷上地域及び福知山市と接している。 区域内に北近畿豊岡自動車道青垣インターがあり、神戸大阪と県北部へ高速バスで繋がっている。JR 柏原駅には1日9便の路線バスがある。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 保元3年(1158)信濃国佐久郡から移ってきた井上氏が故郷の地名「芦田」を名乗ったのが芦田の由来である。天正7年(1579)明智光秀の丹波攻めで落城するまで420年間芦田一族が治めた。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 青垣地域の加古川下流に位置し、肥沃な土地が多く農業が盛んである。多様な営農体系が見られ、水稻のほか果樹(ブドウ、モモ、栗など)、バラ温室栽培もある。 佐治地区と一体の工業団地がある。商店は酒屋、スポーツ店等がある。 登録有形文化財蘆田家を活用したカフェ「genten」(食事処)は田舎の雰囲気を残したおしゃれなスポットとして人気である。 丹波青垣ワイナリー、宿泊食事処もみじの里あおきが人気を集めている。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 丹波少年自然の家から山頂に通ずる道は絶好のハイキングコースであり、倉町川のせせらぎも心地よい。岩屋山頂ではパラグライダーのフライト場がある。 東芦田の江古花園周辺の田園風景、セツブンソウの群落は見ごたえがある。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 養老年間(718)に開山した胎藏寺は明智光秀の丹波攻めで焼失したが、以後幕府や領主の庇護で全盛を極め、元禄期は1千石の寺領を持っていた。廢藩で領地を失った。現在は麓に小さな寺院がある。市指定の1寸8分金銅の薬師如来がある。 東芦田の小室城社は丹波で最も古い山城の一つである。前述の蘆田氏一族が居城とした。菩提寺でもあった瑞雲寺の石垣はみごとに曲線美である。 細見綾子(1907~1997)は芦田地区が生んだ日本を代表する俳人である。生家がある。俳歴は68年にもおよび、高座神社内に句碑「でで虫が桑で吹かる、秋の風」がある。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 丹波少年自然の家は市内外から年6万人の宿泊がある。 温水プールのある総合運動公園グリーンベル青垣がある。 道の駅青垣は年10万人の利用者がある。併設の丹波布伝承館は、丹波布について見る・知る・体験する・買うことができる施設として入込客も多い。
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 戸数66戸から227戸の5つの自治会(他1つは特養ホーム)で組織した芦田自治振興会は地域の活性化、安全安心な地域づくりをめざし、ふるさとウォーキング、友遊キャンプ、こども見守り隊、都市交流草刈り隊などを実施している。 東芦田自治会内では都市農村交流施設「ごりんかん」、ハス園を中心にした農村環境・景観づくり拠点「江古花園」を中心に村づくり(※)を20年来行っている。 ※セツブン草祭り、農村のあかり展、交流体験農業、ブドウ、モモの観光農業など 農事組合法人「おいでな青垣」は道の駅で地域特産物販売「夢楽(むら)市場」やレストランを運営している。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 県民交流広場事業(平成23,24年度)により、地域の拠点施設を整備予定である。 芦田小学校の統合問題への対応 これまでの取り組み・実績を活かした、さらなる地域づくりの推進
備考	2011.12.28 作成	

■高齢化等の状況

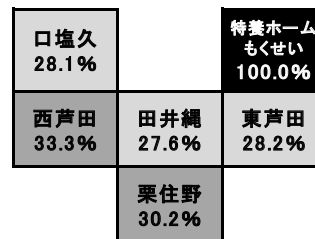
丹波市 青垣 芦田小学校区

I

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%		40%以上
5~10%		35~40%
10~15%		30~35%
15~20%		25~30%
20~25%		20~25%
25~30%		15~20%
30%以上		0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ（丹波市 青垣町 神楽小学校区）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
7	1,432	505	2.83	11.0%	34.8%	H23.3.31 現在

■概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市青垣町の西側に位置し、国道427号、429号で多可町及び朝来市と接しており、丹波市の最高峰である栗鹿峰(962m)をはじめとする山々で四方を囲まれた加古川の源流を構成する農山村地域である。 公共交通はデマンドバスのみであり、マイカー利用が必要である。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 室町時代は、足立氏の勢力下であり、播磨路への国境として重要な位置であった。江戸期には生野銀山の搬送ルートとして活況を呈し、今日の集落形成の要因となった。 豊富な森林資源は共有山林として各戸に貸与し、植林等で収益を上げていた。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな山林資源や砂地を活かした農林業、養蚕業が主な産業であったが、時代の変遷により、昭和30年代に桑畑を水田とする大規模な耕地整理事業、50年代から圃場整備事業を進め、加古川源流を活かした米作りが主な産業となっている。 砂地土質は花卉栽培に適し栽培農家が多い。清流を活かすアマゴ養殖場もある。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 栗鹿山頂からは瀬戸内海、日本海が望め、付近の原生林は新緑、紅葉が素晴らしい。 浄丸の滝は水温が低く、年中豊富な水流が絶えない。樹齢1300年といわれる大名草の大イチョウは圧巻である。 豊かな森林から湧き出る銚子ヶ水、神之池、片淵の水は各方面から人気がある。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 正中2年(1325)、僧遠谿が開山した高源寺は、禅宗中峰派の根本道場として岩屋山で多くの伽藍を擁していた。明智光秀の丹波攻めで焼失し、後年現在地で再興された。天目カエデの紅葉は素晴らしい。国指定重要有形文化財の絹本著色普応国師像がある。 大稗の再興寺には市指定の阿弥陀、釈迦、薬師の三如来坐像がある。大名草に市指定の大銀杏がある。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 神楽小学校があり児童数の減少が課題である。地域づくりの拠点施設として神楽会館、神楽の郷交流センターがある。
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年11月1日から従来の財団法人神楽会とNPO法人神楽の郷、自治会長会を統合して「一般財団法人神楽自治振興会」が設立された。この組織により、神楽地域の環境保全と活性化をめざし、次の事業に取り組んでいる。 神楽地区子どもを育てる協議会、三国太鼓等の活動支援 企業の森づくり活動、カイアポイモ栽培促進と商品化 小稗ピオトープ・バイカモ公園整備、稲土ヒメホテル観賞会活動 神楽会館を「神楽丸ごと生活環境博物資料館」とし展示物の制作活動 大稗お杉地蔵の整備、菅原古民家活用、ウォーキングコースづくり 森林資源、加古川源流の保全・活用研究事業
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 若者の域外流出と高齢化の進展による自治会の活力低下 農業の担い手不足による耕作放棄地の増加と山林の荒廃化 神楽自治振興会を中心に、実績を活かした更なる地域づくりの推進
備考	2011.12.28 作成	

■高齢化等の状況

丹波市 青垣 神楽小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)

大稗 6.8%	小稗 8.4%	惣持 12.7%	文室 19.3%	稲土 11.9%
	大名草 10.4%			検倉 5.5%

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

大稗 44.9%	小稗 35.1%	惣持 30.9%	文室 26.7%	稲土 36.7%
	大名草 34.2%			検倉 38.2%

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	黒	40%以上
5~10%	濃灰	35~40%
10~15%	中灰	30~35%
15~20%	薄灰	25~30%
20~25%	縦線	20~25%
25~30%	横線	15~20%
30%以上	白	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

J

と お さ か 地区カルテ（丹波市 青垣町 遠阪小学校区）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
13	1,114	386	2.89	10.9%	32.6%	H23.3.31 現在

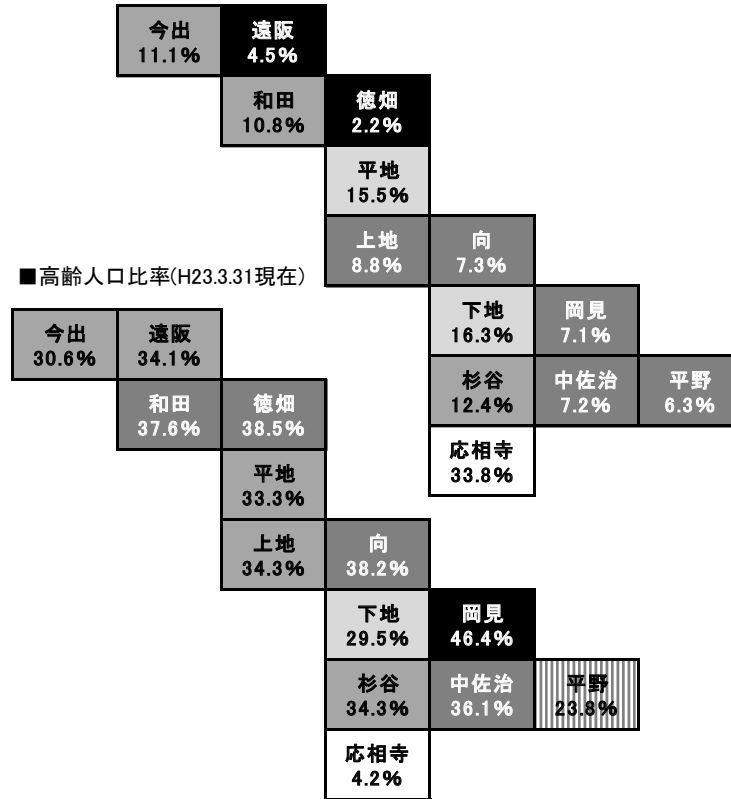
■概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市青垣町の西北端にあり、遠阪峠東の国道427号沿いに細長く開けた地区である。 北近畿豊岡自動車道によって春日・和田山JCTに連絡している。遠阪峠を通じて朝来市（旧山東町）、榎峠を通じて福知山市に接する。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 田ノ口遺跡（和田）から、同遺跡一帯は平安～室町時代に地域の中心的な場所であった。 出雲・但馬・京を結ぶ旧但馬街道沿いに開け、中佐治は宿場町、遠阪は一服処であった。 鉄道駅の利用など、千原峠を経由した旧夜久野町との結びつきも強かった。 はだか祭り（丹波市無形文化財、熊野神社に祈念して病が全快した証に裸でぶつかり合ったことが起源）をシンボルとして、地域コミュニティが継承されてきた。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 農林業、養蚕などで栄えたが、現在は兼業的農業が中心。田畑・山の一部が荒廃。 買物、福祉、診療などは青垣町佐治、氷上町、医療（入院）は柏原、福知山、西脇、三田などへの依存度が高い。公共交通はデマンドタクシーのみである。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 遠阪川・今出川の渓谷美、ヤマメ、オオサンショウウオ、ゲンジボタル、ヒメボタル。 栗鹿山麓のミズナラ自然林などの豊かな植生、冷涼な気候に対応した稀少な草花（セツブンソウ、クマガイソウ、フユハナワラビなど）の植生がある。 熊野神社の葉つきイチョウ、樹齢400年の萱の木、徳畑ぼたん園などが有名である。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 市指定今出権現熊野神社（はだか祭り、数理の額）、鹿嶋神社、武大神社、熊野神社元鎮座地（井尻山）、旧但馬街道沿いのまちなみ（生田家、平岩家など）、集落入口の六地藏、まちなみ（水路）、まんぷ（千原峠の手掘りトンネル）がある。 遠阪峠の3本の道：①旧山陰道：大石りく、伊能忠敬が通ったと言われている。②但馬街道（部分的に残る砂利道）：手塚治虫『ブラック・ジャック』に出てくる。③舗装道
	公共施設	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、郵便局、コミュニティセンターなどの主な公共施設は山垣に集積している。 今出せせらぎ園（蕎麦処）、今出親水公園。小学校は統合などの問題がある。パラグライダー初級練習場は地域外の若者の参加がある。青垣いきものふれあいの里は、生物多様性から注目を集め年々利用者が増加している。
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 遠阪自治振興会：校区単位の様々なまちづくり活動をしている。校区資源の掘り起こしと遠阪楽校を通じて100年先のひとづくりをめざしている。今出せせらぎ園：手打ちそばの愛好家や秋の観月会などに参加する人が増えている。遠阪むらづくりを考える会：地域資源を活用して“遠阪でとりあえずやってみよう”と始まったクラブ活動。今出川遊び村&せせらぎの夕涼み、今出地区で行く年・来る年などでH20「M-1グランプリ」を受賞。地域づくりで「ふるさと自立計画」（H21年度、兵庫県企画県民部）に取り組んだ。遠坂村探究会：資源の再発見とPRを目的に、熊野神社元鎮座地、まんぷ、ブラック・ジャックの道などの探訪を実施している。 遠阪森づくり協議会：アサヒビール西宮工場との提携、「里山ふれあいの森づくり（H21～、5年）」による森林環境整備と相互の交流をしている。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> はだか祭りの保存・継承を通じた次世代の育成と地域の活性化。国道沿いに細長い地区（温度差あり）における情報の交流、共有と一体的発展。農地、山林の荒廃の問題解決、公共交通サービスの整備。1自治会あたりの平均戸数が30戸と小さく自治会運営が困難になってきている。また、応相寺団地を除きすべての集落が高齢化率30%を超え担い手不足となっている。
備考	2011.12.28 作成	

■高齢化等の状況

丹波市 青垣 遠阪小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%	黒	40%以上
5～10%	濃灰	35～40%
10～15%	中灰	30～35%
15～20%	薄灰	25～30%
20～25%	縦線	20～25%
25～30%	横線	15～20%
30%以上	白	0～15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

K

地区カルテ（丹波市 春日町 黒井小学校区）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
21	3,573	1,321	2.70	13.9%	28.0%	H23.3.31

■校区の概況

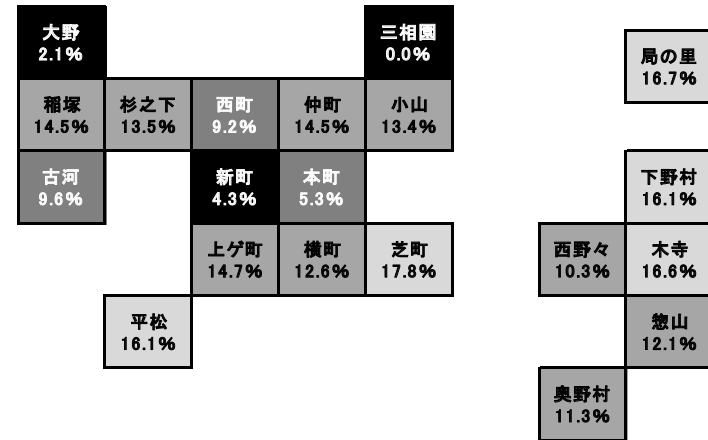
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市春日町の南部に位置し、城山の麓に広がる地域で町の中心となる。 地域の南北に JR 福知山線が通じ、黒井駅から京阪神方面へ2時間の距離である。また舞鶴若狭自動車道、北近畿豊岡自動車道の春日 IC（野村）から高速道のネットワークで全国と結ばれ、交通の要衝である。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 地名の起源は明らかではないが、古は春日部郷、船城郷に属し、柏原藩、亀山藩の所領であったが、明治維新後、黒井、稲塚、古河、平松、野村の五か村を合わせて黒井村を編成、大正12年4月1日には黒井町となり、昭和30年3月20日町村合併によって、他の四か村とともに春日町となった。さらには平成16年11月に6町合併により丹波市となる。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 足利氏の初期より黒井城下として山東部の要衝として商業が栄えたが、旧商店街は国道バイパスの開通により寂れた。 地域内には企業誘致により工場も進出し、また国道沿いにはディスカウントショップも出店されるなど、現在も商工業の中心となっている。 黒井川は氾濫を繰り返していたが、河川改修とほ場整備事業により排水が改善され農業も盛んである。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域の東北境の連山には城山があり氷上と接し、西南境の連山は柏原と接している。南は船城、北は春日部、東は国領となる。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 黒井城（保月城跡）は、国史跡に指定されており、山頂からの展望がすばらしく、町内を一望することができる。 城山の麓には黒井城下館跡の興禅寺があり、春日局（お福）の生誕地と言われており、お福の産湯井戸、腰かけ石が残されている。
	公共公益施設	丹波市春日庁舎、春日住民センター、春日体育センター、春日図書館、春日文化ホール、春日歴史民俗資料館・郷土資料館、春日学校給食センター、春日福祉センター「ハートフルかすが」、黒井郵便局、丹波警察署黒井駐在所、県立氷上高等学校、明德保育所、黒井小学校、黒井幼稚園、春日中学校、市営かすが平松団地、丹波ひかみ農協春日支店、春日営農経済センター、春日自動車教習所
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 黒井地区自治協議会は黒井校区内の各種団体25団体の構成により、平成19年4月設立しやま交流館を拠点施設として事務所を開設 毎年秋に黒井城まつりを開催 このほか協議会傘下の各種団体が様々な活動を行っている。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 氷上高校という資源の活用 若者の事業への参加
備考		

2011.12.28 作成

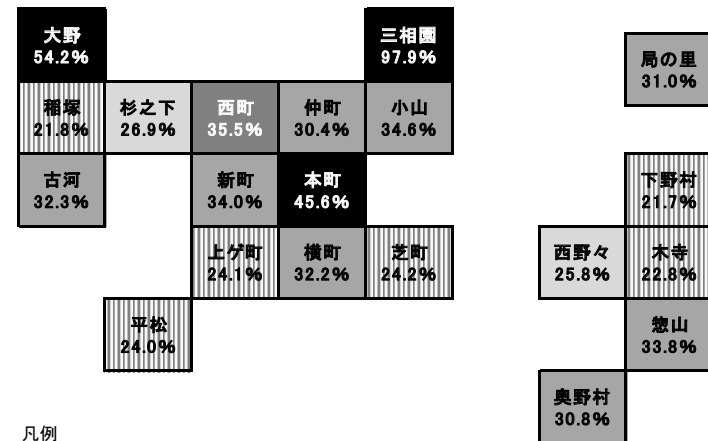
■高齢化等の状況

丹波市 春日 黒井小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	黒	40%以上
5~10%	濃灰	35~40%
10~15%	中灰	30~35%
15~20%	薄灰	25~30%
20~25%	縦線	20~25%
25~30%	横線	15~20%
30%以上	斜線	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ（丹波市 春日町 春日部小学校区）

かすかべ

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
6	2,241	785	2.85	12.6%	30.8%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 春日地域の最北部に位置し、三角形の形状をしている。北は市島町、東南は大路、国領、西は黒井と接する。大路と市島町の間には妙高山があり、西には黒井の城山、北には小富士山が位置している。南北に竹田川が貫流し、JR 福知山線、国道 175 号がこれに沿って北上している。また、舞鶴若狭自動車道が南部の春日インターから東部を北上し、県道迫入市島線が東部を通っている。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 春日部地区は古くから開拓されたようで、古墳が多数散在している。昔の「春日部庄」は旧春日部村だけではなく、旧黒井町の一部を含めた地域であった。明治 22 年町村制施行時に八カ村で春日部村を組織したが、その後の併合により現在の 6 大字となった。その後、昭和 30 年 3 月には 1 町 4 村が合併し春日町が誕生、さらには平成 16 年 11 月に 6 町合併により丹波市となる。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> この地域は、比較的広い平坦地であると同時に、灌漑も便利であったので農耕も盛んであった。その他の高地においては桑園もあり、養蚕も盛んに行われていた。 野上野では果樹の栽培が盛んで野上野梨生産組合が組織されてからは、二十世紀梨を中心とした観光農園で毎年 9 月、10 月には多くの来場者があった。 現在は、一部で果樹の栽培がされているほか、水稻を中心に黒大豆、小豆の栽培が盛んである。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 多利の日ヶ奥溪谷（県立自然公園）には「白竜の雌雄の滝」がある。 市島と境界を接する小多利には「小富士山」があり、また多田には黒井城のある「城山」があり、登山道も開けており登山者も多い。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 八朔まつり、日ヶ奥溪谷、二間塚遺跡、小富士山、日限地藏、七日市遺跡、野々間遺跡、
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 老人福祉センター春日部荘、七日市会館、丹波市消防署山東出張所、春日部小学校、春日部幼稚園、社会福祉法人かすかべ保育園、丹波警察署多利駐在所、市営のこの団地、道の駅「丹波おばあちゃんの里」、春日部郵便局
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 自治会数:6 自治会、世帯数:801 世帯、人口:2,274 人 春日部地区自治協議会は、春日部校区内の各種団体 20 団体の構成により平成 19 年 4 月設立。老人福祉センター春日部荘を拠点に事務所を開設。 各種団体が様々な活動、事業を行っているが、自治協主催でふれあいハイキング、元旦登山、文化講演会を開催している。 自治会による取り組みで「日ヶ奥溪谷まつり」（多利）、「れんげまつり」（野上野）のほか、営農組合による地域づくりも行われている。 多田区整備計画を策定（平成 18 年 4 月）
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 共通の財産（歴史文化）がない。 ・若者の定住後継者が少ない。 就労企業、施設がない。 ・農地の耕作放棄地の増加 ・里山の管理 高齢化防止 ・未婚者の増加
備考	2011.12.28 作成	

■高齢化等の状況

M

丹波市 春日 春日部小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)

池尾 7.7%	小多利 15.9%
多田 10.9%	多利 12.3%
七日市 10.6%	野上野 13.7%

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

池尾 42.3%	小多利 31.7%
多田 30.6%	多利 34.9%
七日市 25.5%	野上野 28.1%

※年少人口比率：15 歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65 歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%	■	40%以上
5～10%	■	35～40%
10～15%	■	30～35%
15～20%	■	25～30%
20～25%	■	20～25%
25～30%	■	15～20%
30%以上	■	0～15%

地区カルテ (丹波市 春日町 大路小学校区)

おおじ

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
8	2,289	782	2.93	10.3%	34.6%	H23.3.31

■校区の概況

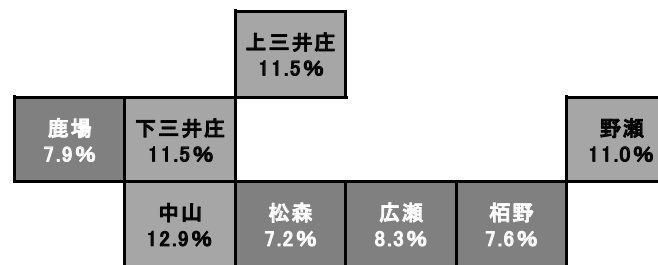
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市の最東部に位置し、地形は南北に狭く、東西に長く、三方を山に囲まれている。 地域の東北部は県道中山綾部線で京都府福知山市、南は県道春日栗柄線の栗柄峠を越え篠山市に通じ、西は東中・国領に接している。 神姫バスによる野瀬集落を起点とした黒井・柏原方面への路線バスが運行されている。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 昔は「王子谷」と言っていたものが、次第に「大路」と言うようになった。徳川時代には、旗本三家に分領せられ、明治22年に8ヵ村を合わせて大路村を組織、昭和の大合併により昭和30年3月には1町4村が合併し春日町が誕生、さらには平成16年11月に6町合併により丹波市となる。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 古くは林業、木竹工業が盛んに行われ、京阪神はもとより、遠く南米方面へも輸出されていた。 現在の主な産業は、農業のほか、製茶業、小規模な木工業がある。住民の多くは地域外へ通勤している。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域の南は多紀連山、北は妙高連山、中央を東西に延びる山脈がある。 「兵庫の山百選」にある三尾山(586m)とその連山は丹波での絶好のハイキングコースとなっている。 春には、多紀連山の三尾山麓が「こぶし(タムシバ)」の花で白色に色づき、この時期にしか見ることのできない三尾山を楽しむことができる。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 三尾山の頂上には中世の山城跡がある。 深尾須磨子(ふかお・すまこ)は、春日町下三井庄出身の女流詩人。郷愁の散文集で綴った『丹波の牧歌』や詩集『斑猫(はんみょう)』『牝鶏(めんどり)の視野』『真紅の溜息』などの作者として有名。 大路焼きの窯跡(野瀬)。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 県営住宅中山団地、大路郵便局、老人福祉センター三尾荘、丹波警察署松森駐在所、小規模生活ダム「三宝ダム」、春日クリーンセンター、春日総合運動公園、大路小学校、認定こども園「三尾の森おおじ」 春日町役場大路支所、JA丹波ひかみ大路支店は組織の整理統合等により廃止された。
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 大路地区自治協議会は大路校区内の各種団体21団体の構成により、平成19年4月設立。老人福祉センター三尾荘を拠点に事務所を開設。 各種構成団体主催による行事の外、農業祭「アグリフェスタ in おおじ」(11月)開催 このほか協議会傘下の各種団体が様々な活動を行っている。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 大路地区自治協議会は、丹波市の東部に位置し、8自治会、795世帯、2,309人の地域。 過疎化、高齢化と少子化が著しく、人口も毎年減少している。年老いた夫婦が細々と家を守り、伝来の田畑を耕作することも難しい、いわゆる過疎世帯、核家族化が進行している。地域で行う事業の参加者も減少しており、参加意識も希薄となっている。 地区の将来ビジョンを描き、その実現に向けて資源を活かした取り組みを継続的に進める地域づくりが求められている。
備考		

2011.12.28 作成

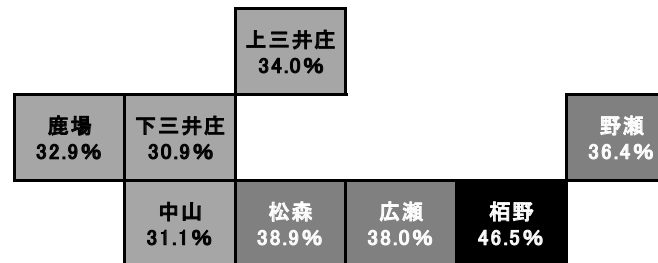
■高齢化等の状況

丹波市 春日 大路小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	黒	40%以上
5~10%	濃灰	35~40%
10~15%	中灰	30~35%
15~20%	薄灰	25~30%
20~25%	縦線	20~25%
25~30%	横線	15~20%
30%以上	白	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

N

地区カルテ（丹波市 春日町 ^{しんしゅう}進修小学校区<国領>）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
4	2,343	837	2.80	10.8%	28.6%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 北は春日部、東は大路、北西は黒井に、山を隔てて西南は柏原、南は篠山と接している。 主要地方道春日栗柄線が棚原、国領、東中を通り、大路を経て篠山に達し、県道追入市島線は国領から春日部に至る。また、自動車通行は出来ないが国領から追入峠、東中から佐中峠を経て篠山市に至るルートもある。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 昔は春日部庄の一部であったが、南北朝の時代には赤松氏の支配に属し、江戸時代に至り亀山藩の領地となった。 明治22年に4ヵ村を合わせて国領村を組織、昭和の大合併により昭和30年3月には1町4村が合併し春日町が誕生、さらには平成16年11月に6町合併により丹波市となる。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 古くから農業、林業ともに発展し、国領、棚原、東中の高地には桑園も多く、養蚕も盛んであったが、現在は衰退している。また、葉たばこの栽培も多かったが現在は少なくなっている。東中の一部地域では、黒さや大納言小豆の発祥の地として、栽培の拡大が図られている。 国領の商店街には様々な店が軒を連ねていたが、廃業に伴って次第に少なくなっている。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 南は多紀連山の地域で最も高い黒頭峰（621m）があり、北は妙高連山の東端が連なっている。また、春日部との境も低い連山がある。 土地は山に囲まれた中央部に広がり、竹田川が中部を北に流れている。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 国領は古くは「国料」と称されていた。また、篠山より福知山に通じる街道にあたるため、一宿駅として繁栄した。 国領温泉は市内唯一の温泉で、少し茶色がかかった多量のラジウムエマチオン鉄分を含んだ炭酸鉄泉。神経痛、慢性消化器病などに効果があると言われている。 進修小学校の校名は、古くは国領小学校であったが、明治25年7月14日に「進徳修業」という言葉から「進修校」と命名された。また、地域の子どもが全員学校に入れるよう寄付を募り、全国で一番早く無料化になった。この学田の取り組みを今に残す記念碑が建てられ、地域の人々は「進修校」の名に熱い思いと誇りをいんでいる。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 春日農村環境改善センター、進修小学校、進修幼稚園、進修保育園、丹波警察署国領駐在所、国領郵便局、貝市会館、市営国領団地、県立氷上特別支援学校
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 自治会数：4自治会、世帯数：748世帯、人口：2,262人 国領地区自治協議会は進修校区内の各種団体21団体の構成により、平成19年4月設立。春日農村環境改善センターを拠点に事務所を開設。 構成団体により元旦登山、健民運動会などの行事を実施
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進行や地域連帯感の希薄化にともない、代表的な地域行事の存続や地震・台風など災害時の扶助活動に課題がある。
備考	2011.12.28 作成	

■高齢化等の状況

丹波市 春日 進修小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)

春日学園 10.0%	棚原 10.7%	柚津 7.5%
春日育成苑 0.0%		国領 13.0%
		東中 11.5%

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

春日学園 0.0%	棚原 31.2%	柚津 29.8%
春日育成苑 6.0%		国領 27.5%
		東中 30.3%

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%	■	40%以上
5～10%	■	35～40%
10～15%	■	30～35%
15～20%	■	25～30%
20～25%	■	20～25%
25～30%	■	15～20%
30%以上	■	0～15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ（丹波市 春日町 船城小学校区）

ふなき

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
12	1,398	505	2.77	13.5%	30.9%	H23.3.31

■校区の概況

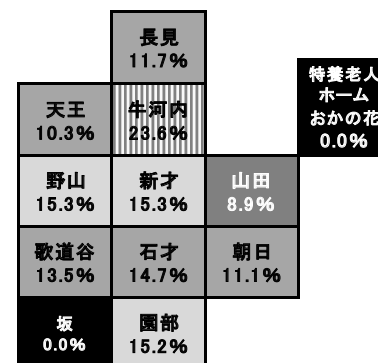
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市春日町の西部に位置し、東は春日町黒井、西は氷上町石生に接している。 地域の中央に田園地帯が広がり、南北の山麓に集落が点在している。 地域内を東西に国道175号、JR福知山線が平行している。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 船城地域の南北の山麓を中心に、4世紀から6世紀にかけての古墳が点在していることから、古来より栄えたことがうかがえる。 明治時代に9ヵ村を合わせて船城村を編成し、昭和30年に1町4村と合併し春日町となる。さらには平成16年11月に6町合併により丹波市となる。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 当地域は耕作地が中央に広がり一次産業（農業）が中心となっている。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 長見の千年桜 国道175号以北に広大な田園風景が広がる。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 船城は、京都東寺領であった記録があり、以来この地は皇室・公家・寺社との関係が深く、今に残る文化遺産も京都にまつわるものが多い。 舟城神社は、「牛頭天王」と呼ぶ牛の神を祀る古い社であり、船城の「天王さん」と称し、7月の祇園祭には丹波・但馬・播磨一帯の農家が牛を曳いて参詣した。現在では、農耕に牛馬を使わなくなったことから寂れ、近隣の酪農を営む人のお参りするくらいである。 天王坂にある大石りくの碑
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 船城小学校、船城幼稚園、春日新才郵便局、老人福祉センターふなき荘、丹波警察署石才駐在所、市営牛河内団地、市営園部団地、県営春日石オテラス
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 自治会数：11自治会、世帯数：507世帯、人口：1,406人 船城地区社会教育振興会等が中心となり、平成19年年4月「春日船城地区自治協議会」設立、老人福祉センターふなき荘に事務所を開設した。 環境・健康・教育をテーマに構成団体主催による行事を行っているほか、「船城地区自治協議会だより」を発行。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 自治協議会は、地区が主体的に立ち上げたというより、丹波市の指導による自治振興会等の設立の動きの中で設立されたもの。このため、自主的な活動より、防犯、福祉などの従来型の活動が多い。 協議会の役割や意義、地区の将来ビジョンについて話し合うとともに、その実現に向けて、地区の資源を再発見・活用した取り組み（地域づくり）を継続的に進めることが求められている。
備考		

2011.12.28 作成

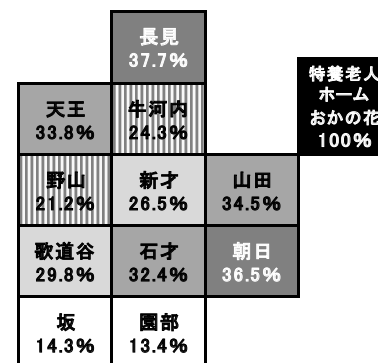
■高齢化等の状況

丹波市 春日 船城小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%	黒	40%以上
5～10%	濃灰	35～40%
10～15%	中灰	30～35%
15～20%	薄灰	25～30%
20～25%	縦線	20～25%
25～30%	横線	15～20%
30%以上	白	0～15%

P

地区カルテ（丹波市 山南町 上久下小学校区）

かみくげ

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
8	1,525	538	2.83	12.6%	32.1%	H23.3.31

■校区の概況

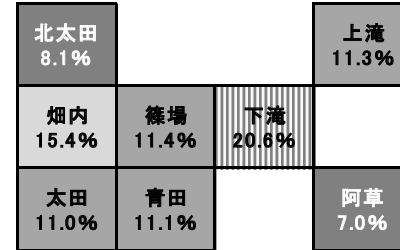
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市南東部に位置し、川代峡谷を境に篠山市と隣接する。 上久下地域のほぼ中央を JR 福知山線、県道 77 号、篠山川が走る。地域のほぼ中央に JR 下滝駅（無人駅）があり大阪、福知山へ通じる。 面積は 25.2 ㎏、山林が大半を占める山間地。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 上久下村の阿草、上滝、下滝、青田、篠場、畑内、太田、北太田の 8 集落からなる。 大阪から舞鶴港までの軍事物資輸送を目的にした阪鶴鉄道の開通により、下滝駅を中心に林業で栄えた。昭和 30 年に山南町として合併するまでは村立上久下中学校も設置され、年少人口も多かった。
資源・施設	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 古くから椴皮葺きの伝統技術が継承され、「椴皮葺師」「原皮師」などの技術者が多い。丹波の椴皮は良質で重宝され、村上社寺工芸社、友井社寺など全国的な企業が存在し、その高い技術により京都御所や出雲大社、厳島神社、金刀比羅宮等手がけている。 商工業は日本容器、永井木工、山南合成、竹内薬品、土田工業など地元で根差した会社。 地域の中央を横断する篠山川により農地は狭く、機械化等による大規模農家はなく、兼業農家が主。（花卉栽培、減農薬、あいがも農法等、個々に販売経路を求めた特色ある農法も行われている） 買物は、丹波市中心街もしくは篠山市、西脇市へ。就労も地域外が主とするスタイル。 高速道路 IC（丹南篠山口、水上）には約 30 分を要し、鉄道に比べやや不便。
	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 川代峡谷を中心に中生代白亜紀前期の地層「篠山層群下部層」（約 1 億 1 千万年前）が露頭している。2006 年に村上茂氏と足立湖氏により草食恐竜ティタノサウルス類の化石が発見され「丹波竜」と命名された。化石の発掘体験等で、2010 年には、国内最古の鱉竜（アンキロサウルス類）の歯、カエルの全身骨格、2011 年には獣脚類（テリジノサウルス類としては国内最古）の歯が発見される。 上滝から柏原へ抜ける一帯は地層学習では最適とされている。 下滝大蔵神社のケヤキの巨木は、丹波市内のケヤキでは屈指。上滝の山口神社のスギは日周り 7.1m、高さ 35m であり、市内第 1 位、県下でも有数の大木。 ポットホール（罅穴）が篠場付近に多い。 篠山川でナマズの幼生が見つかるなど、川の浄化が進んでいる。
地域づくり	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 承久三年（1221 年）、久下重光の孫、久下直高が栗作郷の地頭として関東より移ってきた。以後丹波に定住し、一時は丹波守護代となるほどの大身となったが、やがて衰退して久下谷一帯（上久下・久下）を治めるだけとなった。 永和元年（1375 年）に管領、細川頼之・頼元により太田に慧日寺が建立される。一本山として末寺 46 カ寺、塔頭 16 坊が存在したと伝えられる。天正 3 年（1575 年）に明智光秀の兵火にあい焼失するが、寛永年間（1624～44）・慶安年間（1648～52）に再建が進められた。現在の仏殿・方丈・鐘楼などは元禄年間（1688～1704）以降、一説によると 1718（享保 3）年に再建されたものという。7 通保管される朱印状は寺領確認を示しており、徳川 8 代將軍吉宗より 14 代將軍家茂まで 7 代に渡って下付されたもの。 公卿泉の「村上酒造」は安政 6 年（1859）に市内初の酒造業をはじめている。 椴皮葺きは、千数百年の長い伝統技術に裏打ちされて日本独自に発展を遂げた屋根葺技術。椴皮葺は優良な椴皮を調達する「原皮師」、膨大な留釘を製作する「竹釘師」、屋根を葺く「葺師」の三位一体の技術によって支えられており、上久下の地から多くの椴皮職人を輩出した。 上久下村一帯がランプ生活だった大正 9 年、村長である平藤徳蔵氏等によって、水力発電所設営の協議が整い、上滝・下滝の水利組合灌溉用水を利用して導水することになり、総工事費約 11 万円（当時の金額）を費やして自力で建設された
	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 上久下地域自治協議会：8 自治会からなる「自治会長会」、文化・伝統の継承を目的に校区内各種団体で構成される「ふるさと振興会」、恐竜化石発見地としてまちづくりに活かすために「恐竜の里づくり協議会」の 3 つの組織から構成される。また、平成 23 年度からは、恐竜の里づくり協議会から「企業法人 元氣村かみくげ」を立ち上げ、野菜の販売、グッズ販売、軽食提供、化石発掘体験、現場ガイド、周辺清掃管理など独立した活性化収益事業を行っている。 地域住民に自治協議会の活動内容の理解を深めるため、事業実施後の PR にも力を入れ、「広報誌かみくげ」を毎月発行、HP「丹波竜の里 かみくげ」で随時、情報発信を行い、地域課題の解決に向けた積極的な取り組みを行っている。
備考	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢になっても地域で安心して暮らすために必要な医療機関、高齢者福祉施設がない。 地域づくりセンター（指定管理）の譲受
	備考	<ul style="list-style-type: none"> 上久下地域自治協議会：会長（柳川瀬義輝）、活動推進員（村上 茂） 上久下地域づくりセンター TEL 0795-78-0001 / FAX 0795-78-0819

2011.12.28 作成

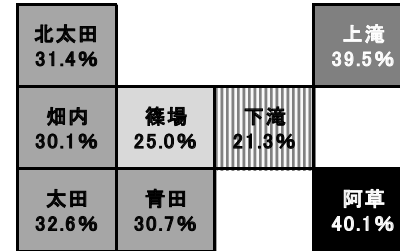
■高齢化等の状況

丹波市 山南 上久下小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



※年少人口比率：15 歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65 歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%		40%以上
5～10%		35～40%
10～15%		30～35%
15～20%		25～30%
20～25%		20～25%
25～30%		15～20%
30%以上		0～15%

Q

地区カルテ（丹波市 山南町 久下小学校区）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
23	3,559	1,231	2.89	11.7%	31.0%	H23.3.31

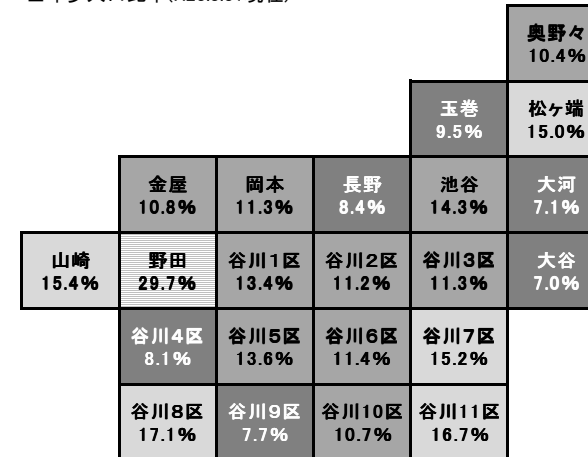
■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市の最南端、篠山川沿いに細長く拓けた、旧山南町の中心地域。 JR 福知山線・加古川線の谷川駅、久下村駅を通じて大阪・福知山・加古川と連絡。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 古来より、京と播磨・但馬を結び、中世以降は生野銀山の鉱物資源を大坂へ運ぶ要衝の地として往来が栄えた。 鎌倉時代以降、上野(こうずけ)より久下氏が地頭職として移り住み、久下谷と呼ばれた。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 篠山川・加古川の水運を利用した木材の集散地として栄え、戦後は製紙工場などが集積。 全国的にも稀な、高い技術を持つ檜皮葺きの職人・事業所の集積地。 篠山川南の東西方向に商店街が形成されているが、近年やや低迷傾向にある。 ふるさと丹波笛路村は、都市農村交流を積極的に進めている。 買物は谷川の商店、市内または近隣の商業施設。 高速道路 IC (丹南篠山口、氷上) には約 30 分を要し、鉄道に比べやや不便。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 山田川沿いに拓けた扇状地形の谷川。魚、ホタル、高座神社の巨木・フジギ (県天然記念物)、篠山川沿いの桜並木 噴気孔化石 (金屋)：白亜紀に浅い湖などに積もった火山灰や火砕砕片が水蒸気爆発を起こして形成された世界的に珍しい石。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 首切り地藏尊 (討たれた平家一族を祀ろうと里人が建てた碑が起源の 7 体の地藏)、高座 (たかくら) 神社 (唐破風の向拝、石鳥居に特徴がある神社)、常勝寺 (十一面千手観音立像・薬師如来座像は国重文、鬼こそは丹波地方唯一の鬼追い儀式)、金屋の十三塚 (京から落ちのびた足利尊氏の影武者となって自刃した 13 人の冥福を祈って建てられた塚)、加茂神社 (無病息災を祈る伝統的な金屋の神楽舞が有名) 篠山川堤防に描かれた丹波竜アート
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市山南支所、住民センター、やまなみホール、ちーたんの館 (丹波竜化石工房) 久下小学校、山南中学校、中央公園、認定子ども園みつみ 丹波警察署池谷駐在所・谷川駐在所
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「久下地区自治会長会」「ふるさと久下振興会」が中心になり、2007 年 3 月「久下自治振興会」設立 (やまなみホール) し、県民交流広場事業を活用して谷川コミュニティセンターに事務所開設。 自治振興会は、久下地区の 23 自治会を中心に 24 団体が構成され、会長・副会長 (3)・4 つの部会 (健康体育/教育人権/環境福祉/広報) で活動。 これまでの活動：春風学級 (生き方を育む学習) / 地域づくりワークショップ/運動会 / グラウンドゴルフ大会 / ふれあいハイキング・十三塚ミステリーウォーク / ホタルの保全活動 / マップ作成 / 久下紹介イラストマップ / 広報紙の発行 2010 年、若手メンバーによる「一体感あふれる町づくり委員会」発足。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 旧山南町時代の公共公益施設、歴史・文化資源などを活かした活性化 篠山川を挟んだ南北地域の一体感ある地域づくり 一体感あふれる町づくり委員会などを通じた若手リーダーの育成
備考	<ul style="list-style-type: none"> 久下自治振興会：会長 (西垣忠司)、活動推進員 (久下秀和) 久下自治振興会事務所 (谷川コミュニティセンター) TEL / FAX 0795-77-3333 <p style="text-align: right;">2011.12.28 作成</p>	

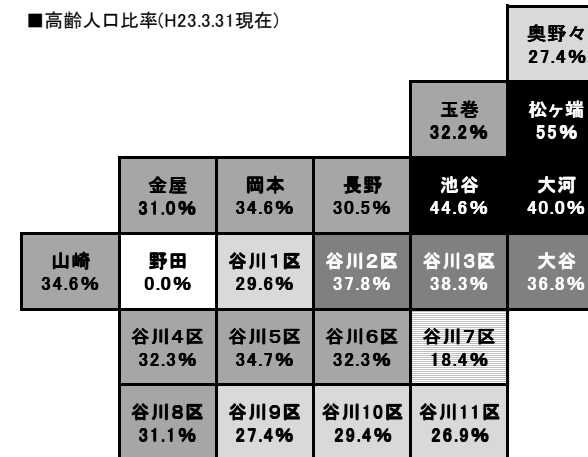
■高齢化等の状況

丹波市 山南 久下小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



※年少人口比率：15 歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65 歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%		40%以上
5~10%		35~40%
10~15%		30~35%
15~20%		25~30%
20~25%		20~25%
25~30%		15~20%
30%以上		0~15%

R

地区カルテ（丹波市 山南町 小川小学校区）

おがわ

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
6	2,379	925	2.66	13.0%	29.5%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 面積は8㎓、6集落からなる。 丹波市の最南端に位置し、篠山川と加古川が「であい」と呼ばれる地点で合流する地域。 明石から舞鶴へ通ずる国道175号が縦貫し、主要地方道篠山山南線が南部を横断する、丹波市の南の玄関口としての位置にある。 大和朝廷の頃から出雲へ抜ける山陰道の要地であり、山陽裏街道の要路でもあった。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 小川地域は、井原郷、井原庄と称された。平城京址から井原郷と記された木簡や縄文・弥生時代の遺物が多く出土することから、古くから開けた地域であった。 標高は100m程度の平地であるため、地形上、瀬戸内文化と日本海文化が入りやすい環境にあった。 戦国時代には和田日向守が小川地区と和田地区を領土とし、和田庄と呼んだ。 明治時代に入り22年の町村制実施の時に村名を小川村とした。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 山南町の中で最も利水に恵まれ、耕地面積も広大であるなど、古来より水稲栽培に適した地域。土地区画整理により大型農機の導入で生産性の高い農業が営まれている。 近年ではベビーリーフ等の温室野菜栽培も集落営農組織により確立されており、水稲や大豆、小豆等に次ぐ収益率の高い作物として定着している。 大河川に囲まれた土地柄から、昔から釣具の製造業が多く、特に釣針の生産量は丹波市内でもトップである。 山間部の岩屋地区では丹波栗の栽培が盛んで、足利尊氏畵われの「ててうち栗」は当地域でしか栽培が出来ず、観光資源の一助となっている。 高速道路IC（丹南篠山口、社）には、約30分を要する。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 山南地域の最古の出土石器は当小川地域から出土している。高反遺跡や至山遺跡から出土した縄文時代～弥生時代中期の多数の石器から、古くから人が住み着き、狩や稲作で生活する、開けた土地であったことが分かる。 加古川、篠山川が合流する当地域は、水辺が豊富で、加古川へ注ぐ岩屋川にはめだかや螢の生息も確認されるなど、自然豊かなところである。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 古くから開けた当地域には古墳群が多い。中でも4世紀～6世紀半ばに築造された丸山古墳（前方後円墳）が最も大きく、出土品からも当時の繁栄した状況が伺える。 平城京址から出土した木簡には、水上郡井原郷から赤米を貢納したと記されている。これが山南地域に関する最古の記録であり、「井原」は1250年の歴史の重みを持った地名である。 室町幕府を開いた足利尊氏は乱世を統制し、混迷の世の末は京都奪還に敗退し、息子義詮と共に丹波落ちし、石籠に逃れてきたとされる場所が石籠寺である。 岩屋地域の石籠寺には、国指定重要文化財の阿形、吽形の巨像をはじめ、数々の歴史的遺産が遺されている。
	公共施設	<ul style="list-style-type: none"> 小学校1、JA1、郵便局1、三美学苑（知的障害者更生施設）1 特別養護老人施設2、駐在所1、葬儀会館1
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 小川地区自治振興会：6自治会と校区内各種団体で構成。振興会は代議員制をとり、委員会、役員会の構成員の参画により地域の活性化と福祉増進活動に取り組んでいる。 活動内容としては、丹波市がすすめる地域づくり事業を推進し、県民交流広場事業を活用しながら、拠点施設を有効活用し、地域の活性化を図ることを主題としている。 石籠寺もみじ祭りは22回目を迎えた。年間約15,000人の観光客がある。 たいよう学級／市民体育大会／古代米交流田植え・稲刈り事業／元日ジョギング
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 6集落から成る校区なので地域の統制はとれているものの具体的な地域づくりへの取組みが明確でないため、将来のあり方から議論される組織づくりや場づくりが急がれる。 地域の核となる地域づくりセンターの整備が不可欠である。
備考		<ul style="list-style-type: none"> 小川地区自治振興会：会長（寺内 清）、活動推進員（篠倉敏孝） 小川地域づくりセンター TEL 0795-77-0044 / FAX 0795-77-0444

2011.12.28 作成

■高齢化等の状況

S

丹波市 山南 小川小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)

		南中 11.9%	岩屋 13.9%
山路園 0.0%	野坂 21.0%	奥 13.8%	三美学苑 0.0%
五輪荘 0.0%		井原 12.5%	村森 10.4%

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

		南中 26.6%	岩屋 33.9%
山路園 100%	野坂 17.3%	奥 27.0%	三美学苑 25.6%
五輪荘 100%		井原 29.8%	村森 28.9%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%		40%以上
5～10%		35～40%
10～15%		30～35%
15～20%		25～30%
20～25%		20～25%
25～30%		15～20%
30%以上		0～15%

地区カルテ (丹波市 山南町 和田小学校区)

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
17	4,979	1,646	3.02	12.7%	28.0%	H23.3.31

■校区の概況

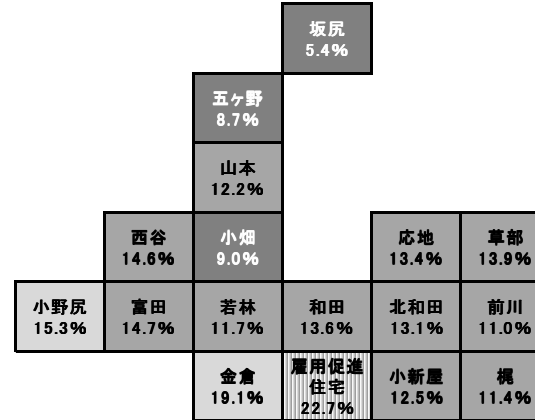
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 面積は40.73㎏ 山南町は東西に長い地形で、和田地域はその最も西部に位置し、南は西脇市、西は多可町に接する(播磨との国境)。地域の中央には牧山川が流れ、北和田、前川地域で加古川と合流している。 道路網は多可町から小野尻峠を通過して国道175号草部交差点までの県道上小田成松中線が主要道路として縦貫している。 古くは加古川を利用した水運が盛んに行なわれ、屋号などに名ごりがある。 地域の東部には東経135度の子午線が通っている。
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 丹波の最南端にあり、播磨の国に接する沼貫郷(和田・沼貫)として、稲作と山の幸にめぐまれた地域であった。 梶地域には、古代から人が住んだ証として、石器などが発掘されている。 戦国時代には和田の北の蛇山に和田城を築城した和田日向守が勢力を振るい、和田之庄と称した。
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 和田地域の耕地は加古川流域の水田地帯と和田以西の畑作地帯に大別され、特に和田西部地域は江戸天保年間の時代から菓草(特に黄蓮)の栽培が盛んで、菓草大和田村を全国に知らしめた。現在でもセネガの栽培は国産品では国内の9割を占める。 牧山地域では花卉、園芸作物の生産も盛んで、特に若松は関西圏の約8割を誇る。 檜皮屋根に使用される竹釘製造業者は、全国で唯一、山南町梶で生産されている。 和田村は真竹の繁茂する区域が広く、特に釣竿に適した竹が多く、釣竿の製造が盛んであった。また、古くは江戸時代から釣り針の生産もあり、現在も釣具全般にわたる製造・販売業者が多い。 近年は、地域東部の工業団地に、花や実、葉等の植物をプリザーブドフラワーやドライフラワーに加工製造し、日本での販売シェア50%以上を有する世界的なメーカーがあり、地域の雇用創出にも大いに貢献している。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 狭山神社の裏山は、貴重な原生林のある森林地域として見直されている。 応地地内の加古川旧川にはタナゴの生息が観察されており、希少生物の保護にも専門活動家が力を注いでいる。 近年は地域の環境整備も進み、蛭などの生息も復活し、特に牧山地域一帯は丹波市内でも有数の「姫ポタル」の生息地になっている。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 戦国時代、明智光秀の丹波攻めに遭う。小新屋には岩尾城落城時に光秀が馬具を掛け、戦況を見とどけたと伝わる「鞍かけ石」が残る。 応地では「大蛇が子供を水難から救った」との言われから、大蛇は村の守り神と崇め、祭りごととして「蛇ない」の行事が毎年行なわれている。 狭宮神社の能楽堂では、一時途絶えていた能楽が、地元で再興された。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 小学校1、中学校1、幼稚園1、公立保育園1、私立保育園1、丹波警察駐在所2 丹波市立菓草樹公園、和田地域づくりセンター、郵便局1
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと和田振興会：17自治会と校区内各種団体で構成振興会を構成する多くの参画により、地域の活性化と福祉増進活動に取り組んでいる。 活動内容としては、丹波市がすすめる地域づくり事業を推進し、県民広場事業を活用しながら、拠点施設を有効活用し、地域の活性化を図ることを主題としている。 漢方の里まつり／姫ポタルまつり／岩尾城植栽の保育活動・青空学級／住民体育大会(健康まつり)／元旦ジョキング大会・グランドゴルフ大会／子ども見守り活動
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 山南地域の中では最も地域面積が大きく集落数も多いことから、地域のまとまりが不安視される。このような状況下において今後、地域づくりを推進し、地域のあり方を明確に位置づけられるよう、地域リーダーの養成や組織づくりが急がれる。 自治振興会役員任期が1年であること
備考	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと和田自治振興会：会長(畑中 昭)、活動推進員(中西正信) 和田地域づくりセンター TEL 0795-76-2400 / FAX 0795-76-2400 	

2011.12.28 作成

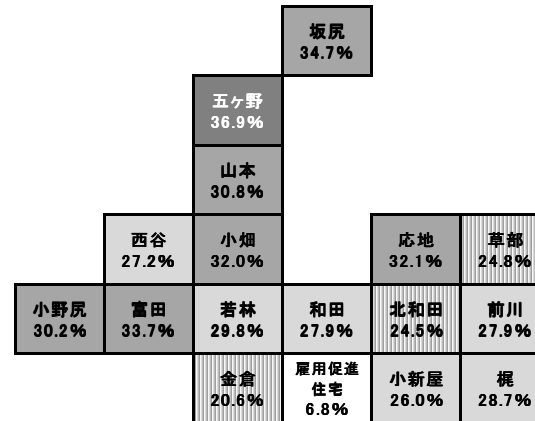
■高齢化等の状況

丹波市 山南 和田小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	黒	40%以上
5~10%	黒	35~40%
10~15%	黒	30~35%
15~20%	黒	25~30%
20~25%	黒	20~25%
25~30%	黒	15~20%
30%以上	黒	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ（丹波市 市島町 竹田小学校区）

たけだ

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
17	2,623	937	2.80	13.6%	29.7%	H23.3.31

■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市市島町の北西部、塩津峠を境に福知山市に隣接している。生活圏は丹波市内よりも福知山市内へ依存している。JR 福知山線「丹波竹田」を通じて福知山、大阪と連絡。大阪へ100km、京都へ98km、舞鶴へ40km、神戸へ94kmの距離にある。 国道175号を経て国道9号から京都方面へ至る。 北緯35度15分、東経135度8分
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 竹田川が南部から北西部へ流れており、その周辺部に水田を中心とした集落が形成されている。旧竹田村から合併を経て現在に至る（S30市島町、H16丹波市）。
資源・施設	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業の農業は稲作を主とし、畜産業（牛）も数軒ある。林業は特に活発ではないが、かつては広大な山林を背景に林業が盛んで、また松茸生産地でもあった。 昭和42年から前山地区と共に農地開発事業により、130ha（竹田110ha）の大規模な農地が生まれ、パイプライン化方式による近代的な農業化が進められた。 古くから扇状地地形の良質な水を活かした酒造業が盛んである（西山酒造、中大槻酒造）。 その他の主な企業：新熱電塗装、菱星電設、大和特殊硝子、日本ダイスチールなど
	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 東部の台地、西部の丘陵地帯はともに広大で裾野的な形態をした穏やかな稜線をなしている。竹田川流域は沖積土、耕地は壤土または砂壤土。近年、蜚が多くなっている。 裏日本型の気候に近く、1～2月は北あるいは北西の季節風の影響を受ける。
地域づくり	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 正岡子規、高浜虚子など多くの文化人が竹田を訪れ、俳句会も頻繁に開催された。わらべ歌、酒造りの歌、草取り歌なども数多く継承されている。 大野唯四郎は江戸～明治に私財をなげうって棄児・孤児愛育救済事業を実施。下竹田にあった育児所の木額「愛育」は、竹田小学校玄関に掲げられている。 石像寺（虚子の句碑）、清菌寺（鬼伝説）、一宮神社、愛宕神社、秋葉神社など 竹田まつり（奴が御輿の露払いをする江戸時代から続く祭り）、ふれあいまつり、十二薬師さんなど。「竹田踊り」が継承されており、地区運動会の恒例行事となっている。 友政城跡（市指定史跡 16世紀に吉松石見守により築城、明智光秀の弟明智光春によって落城）は桜の名所、山麓に友政城山の里公園がある。 大江山鬼退治の途中に一行が休憩したと伝わる「一万坂」、鬼退治の模様を描いた絵馬
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 丹波竹田駅、スポーツピアいちじま、友政グラウンドゴルフ場、いわくら里山ハイキングコース竹田、小学校、竹田コミュニティセンター
備考	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 早くから自治振興会組織を立ち上げ、地域活性化を目的に地域一体となった取り組みが実施されている。（竹田まつり、ふれあいまつり、十二薬師さん、地区運動会） 地域内に食料品店等がなくなることから、市民の生活を守るため、地域で用地・店舗等を確保するなど、地域一帯の取り組みをしている。 平成20年度より県民交流広場事業に着手、松茸菌植え、菊作り、コミュニティセンターの改修、里山ハイキングコースなどに取り組み中（まちづくり委員会を組織化）
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が更に深刻化 駅前地域の店が閉店（潜在的な買物困難者対策） 獣害と高齢化によって増大する耕作放棄地問題への対応 開発途中で頓挫したゴルフ場の有効活用 鹿、猪などの鳥獣被害対策

2011.12.28 作成

■高齢化等の状況

丹波市 市島 竹田小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)

市の貝 12.2%	水西 18.1%	寺内 9.8%	才田 18.8%	樽井 14.2%	石原 5.8%
	くすのき台 30.1%	薬師台 12.2%	中村 10.7%		
	高坂 23.8%	新道具 9.5%			
岩倉 8.7%	大森 12.4%	表 7.3%	森 10.4%		
安下 12.4%	友政 18.8%				

■高齢人口比率(H23.3.31現在)

市の貝 29.7%	水西 24.7%	寺内 28%	才田 32.7%	樽井 33.9%	石原 36.9%
	くすのき台 25.2%	薬師台 8.3%	中村 26.2%		
	高坂 28.6%	新道具 40.3%			
岩倉 28.6%	大森 37.1%	表 28.5%	森 42.5%		
安下 31.4%	友政 34.1%				

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%		40%以上
5～10%		35～40%
10～15%		30～35%
15～20%		25～30%
20～25%		20～25%
25～30%		15～20%
30%以上		0～15%

地区カルテ（丹波市 市島町 前山小学校区）

さきやま

集落数	人口	世帯数	世帯あたり 人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
14	1,558	557	2.80	14.0%	30.6%	H23.3.31

■校区の概況

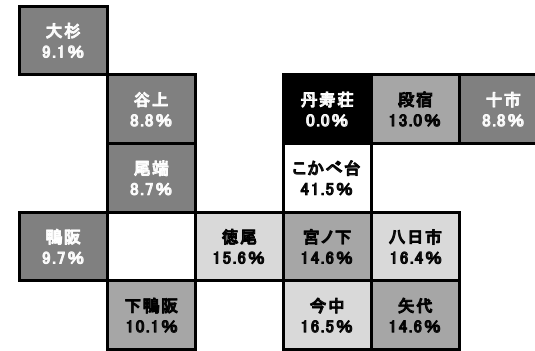
概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市市島町北西部に位置し、東西に細長い地域。北西は福知山市、西は丹波市青垣町、同水上町に接する。東端には標高432mの横峰山山系を控え、竹田川・JR福知山線・国道175号が南北に走り、西に標高655mの五台山、北に親不知605mが地域を囲み、その中心を東西に県道282号・前山川が走っている。 東部にJR福知山線があり、丹波竹田駅・市島駅へはそれぞれ約2km。 東経135度7分、北緯35度13分。東西7.38km、南北3.88km
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 中世、賀茂御祖神社の庄園の地。地域内に加茂神社、鴨の地名があるのは鴨庄の勢いが強かったためと言われている。 徳尾村、上鴨阪村、下鴨阪村、上竹田村、矢代村の五ヶ村が合併して「前山村」が新しく発足した。(S30市島町、H16丹波市)
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業の農業は主に稲作で、時代とともにほぼ兼業農家化している。 昭和42年から農地開発事業を竹田地域と共に実施し、130ha（前山地域：15ha）の広大な農地及び大杉ダムを完成させ、パイプライン化の近代的な農法を取り入れた。 昔の特産品：今中西瓜（大正末期～昭和初期、今中西瓜出荷組合が各地へ出荷し、高く評価された）、前山蓮華の種（大正末期～昭和27年頃、前山蓮華採取組合による商品が兵庫県の特産物として高く評価された） 主な企業：技研製作所、富士精版印刷、ITセミコム、サンバック
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 五台山と登山ルート、前山川、大杉ダム・大杉ダム自然公園（さくらの公園）、狸穴名水（弘法大師が杖をついて湧かせたと伝えられる清水）、総面積の約70%が森林
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 大原神社（徳尾地区にある安産の神様）、加茂神社（宿地区にある雷の神様）、折杉神社（竹筒に入った粥の量による農作物の豊作・不作占い）、活目不動尊（寛永の頃、領主別所豊後守が娘の眼病平癒を祈願して勧請）、愛宕神社、菅田城跡（山城標高230m） 東草寺（旧参道付近を夜通うと美しい音色が聞こえるとの伝説）、十方寺、薬師寺、明専寺、霊山寺、宗福寺、清水寺 藤の森の伝説（黒井城落城の際の密告者として無実で生き埋めにされた夫妻の怨念によってたたりがあったとされる小さな森の跡）
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 大杉ダム自然公園キャンプ場 特別養護老人ホーム丹寿荘、グループホーム（村いちばんの元気者）、前山ふれあいセンター農園、小規模多機能施設さきやま苑、雇用促進住宅サンコーボラスこかべ、前山小学校、前山コミュニティセンター、
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 早くから自治振興会組織を立ち上げ、地域の活性化を目的に地域一体となった取組みを実施している。（五台山まつり、地区夏の夕べ、七夕会、地区文化祭、大杉ダム桜祭、ダム周辺を利用したグランドゴルフ大会） 地域の特産品開発や高齢者等の生きがい施設として、ふれあい農園を組織化する。 県民交流広場事業では、ふれあい交流会、男性料理教室、高齢者パソコン教室等を実施。 高齢者買物難民対策として、地域ふれあいバスを推進し、NPO化に向けて活動中。
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化への対応（高齢者が住みよい・子育てしやすい環境、I・Uターン促進） 高齢者などの市中心部（病院、店舗など）までの交通手段の確保 市北西端に位置することによる生活情報取得困難の解消（ICT活用など） 地域の自立や環境保全のために農業振興、山林の保全活用 鳥獣害による農作物被害（栽培意欲の減退、放棄田の拡大）への対応 など
備考	2011.12.28作成	

■高齢化等の状況

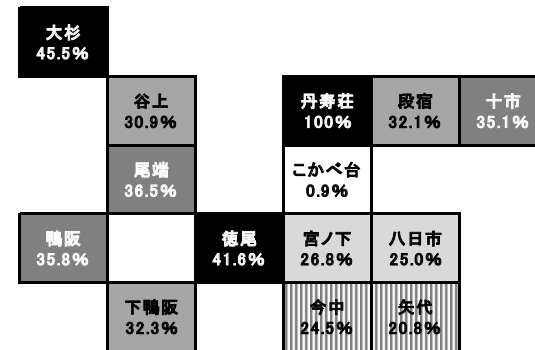
V

丹波市 市島 前山小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0~5%	黒	40%以上
5~10%	黒	35~40%
10~15%	黒	30~35%
15~20%	黒	25~30%
20~25%	黒	20~25%
25~30%	黒	15~20%
30%以上	黒	0~15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

地区カルテ（丹波市 市島町 ^{よしみ} 吉見小学校区）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
7	2,132	752	2.84	12.3%	29.9%	H23.3.31

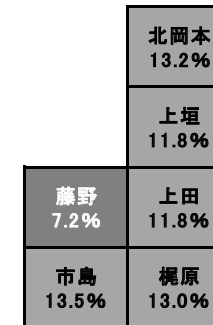
■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市市島町の中央に位置し、竹田、前山、鴨庄、美和、春日町に囲まれる市島町の中央生活圏となっている。 JR市島駅から福知山、大阪へつながっている。 南北に竹田川が流れ、これに鴨庄川が合流する。 東経 135 度 8 分 12 秒、北緯 135 度 0 分 12 秒
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 丹後・但馬～大阪・京都への街道にあつて麻呂子親王が大江山の鬼退治のときに通ったとされる伝説がある。梶原、上垣、上田、北岡本の4ヶ村が合併して構成された。 JR市島駅を中心に商工業が発展したが、現在では国道175号バイパス沿いに市街地が形成されている。(S30市島町、H16丹波市)
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> かつては丹波珪石の産地だった。 有機の里いちじまとして、有機農業の拠点NPO法人「いちじま丹波太郎」を配置。 主な企業：SRIスポーツ(株)、アルインコ、セイコー電機製作所 社会情勢の低迷等により店舗等の閉鎖が見られる。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 小富士山（丹波富士）232m、駅の北東、北西、南側に山があり、その間を竹田川が流れている。11月頃から横峰山（高谷山）山頂から眺める雲海は素晴らしい。 三ツ塚史跡公園の花しょうぶとアジサイなど四季折々の花が楽しめる。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 白鳳時代の三ツ塚古墳・三ツ塚廃寺跡、鴨神社、天満神社、恵比寿神社、愛宕神社（昔、麻呂子親王が大江山の鬼退治に向かう際、竹田川が増水し渡れず、その際に祈願し橋が出現したと伝えられる）、済納寺、大勝寺、日光寺、明智光秀の丹波攻めで焼かれた蓮華寺の観音を祠に祀ったのが現在の観音堂である。 鹿が集まっていたので鹿集荘があった。現在の市島中学校のところに鹿集城があった。 慶応4年に西園寺公望公が山陰地方平定の総督としてこの地を通り「福田屋」で休息したという記録がある。悲恋の姫塚（梶原）、久良部古墳から銅鏡が発見されたほか、狐塚と呼ばれる古墳がある。 上垣にコモゲ淵という沼があり、太古の昔から水が枯れたことがないとのことから、昔は竹田川が山際まで蛇行していた名残との説もある。
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 文化ゾーン施設として、ライブピアいちじま、愛育館、スカイスポーツ、三ツ塚史跡公園、JR市島駅、市営住宅藤野団地、吉見小学校、認定吉見こども園
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 自治振興会組織を中心に、地域一体となった取組みをしている。市島地域の祭りとなる市島えびす祭り（1月）、川裾まつり（7月）が昔からに盛大に開催されているほか、三ツ塚史跡公園を中心に三ツ塚しょうぶまつりも地域をあげて取組まれている。（見守り運動、防災講演会、地区グラウンドゴルフ大会、バレーボール大会、市民運動会、健康講座など） 県民交流広場事業にて防災センターを整備し、地域に防災意識を高め、全自治会が毎年防災訓練を実施 男女共同参画推進により各自治会に女性の自治会長、副会長を配置。 地域づくり事業推進にあたり策定委員会として熱中集団「ひょうたん」を組織し活動中
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 店舗等の閉鎖に伴う市街地形成や市民生活への影響への対策 少子高齢化が更に深刻化していくことへの対策 竹田川・鴨庄川の洪水時、市島・上垣地区内の冠水対策（内水対策）
備考	2011.12.28 作成	

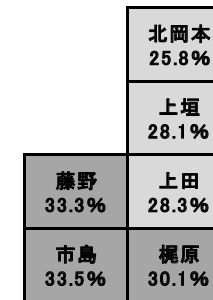
■高齢化等の状況

丹波市 市島 吉見小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%	黒	40%以上
5～10%	濃灰	35～40%
10～15%	中灰	30～35%
15～20%	薄灰	25～30%
20～25%	縦線	20～25%
25～30%	横線	15～20%
30%以上	白	0～15%

地区カルテ（丹波市 市島町 鴨庄小学校区）

かものしょう

集落数	人口	世帯数	世帯あたり人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
9	1,581	532	2.97	14.7%	28.3%	H23.3.31

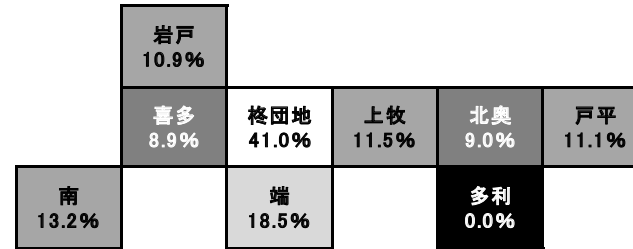
■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市市島町の南東端に位置し、東南北の三面を山が廻り、西の一部が開けている。山が連なる山麓の段丘地に人家、畑地・水田が広がっている。 2006年から地域型デマンドバス「鴨庄ふれあいバス」を住民主体で運行している。 山村振興法指定地域 東経135度13分、北緯35度13分
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 京都市下鴨鎮座の下賀茂神社の社領荘園が発祥。 南から梶原にかけて古墳、住居跡、須恵器を焼成した窯（40数基）が確認されており7世紀頃から人が住んだと考えられている。 南、喜多、岩戸、上牧、北奥、戸平の6ヶ村が合併（S30市島町、H16丹波市）
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 地域の7割以上が山林で、かつては林業が盛んで、松茸生産地でもあった。 基幹産業の農業は、稲作を主とし、畜産業（和牛）も数軒ある。神戸高見牛を肥育しブランド化した肉専門店が開業している。その他、米や野菜を中心に、一部地域で都市部への農産物販売を実施中。 主な企業：長岡機械、アルインコ兵庫工場、ワタミ、鴨庄酒造
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 周囲を妙高山、虚空蔵山、横峰山（高谷山）などの山に囲まれ、自然が豊かである。 妙高山付近は、多紀連山県立自然公園妙高山地区に指定され、モリアオガエル、ツバキ群落などが確認されている。神池寺会館付近にキャンプ場がある。 塚原川、神池川が合流して鴨庄川になり、上牧川、岩戸川を合わせて西流する。 池には、神池、岩戸池、上牧池などがある。ホテルなど自然が豊か。
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 神池寺、最明寺、知乃神社、岩戸寺、徳本寺（尼寺）、正法寺、春日神社、厳島神社 岩倉に賀茂の真養（まみの）の墓と伝えられる墳丘がある（鴨の明神の飛来伝説）。 日ヶ内城跡（正法寺裏虚空蔵山の南）、岩倉城跡（妙高山山麓奥村の岩倉）、北村城跡（喜多の長谷山）、神地寺肩きり地蔵、上牧子授け地蔵 大正時代（13年頃）に鴨庄村宮水力発電所を設置し、村営電気事業を開始。 神池寺には、毒を塗った小僧の形で大蛇を退治した「すまずの池」の伝説がある。 神池は丹波の農聖といわれた吉見伝左衛門が貧しさを村を救うために造った池。 神池寺の「二十六夜祭」（8月26日に「護摩焚き」や「火渡り」がされる）
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> 市島クリーンセンターさつき苑、山の家神池寺会館、シルバーハウスいちじま、市島有機センター、鴨庄小学校、鴨庄保育園、鴨庄コミュニティセンター、市営住宅終団地、
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 自治振興会組織を中心に地域一体となった取組みがなされ、ふるさと夏祭り（二十六夜祭）、案山子まつり、見守りパトロール、鴨庄ふれあいバス（地域デマンドバス）、百人一酒（地域住民による酒造り）、岩戸寺聖天さん、八朔まつり 農業生産物を都市（尼崎など）へ出荷し交流事業を展開 日本野外生活推進協会の本部（上牧：高見豊さん、幼児の環境教育）
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化、就業難による若者の流出（憩いの場づくりと交流施設） 農業後継者難（農地・山林の荒廃）、未婚者対策（若者の交流、お見合い会実施） 農地、山林等の保全活用や獣害対策
備考	2011.12.28 作成	

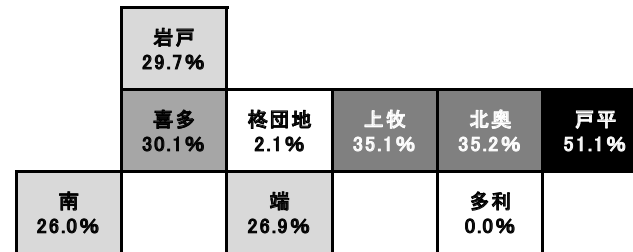
■高齢化等の状況

丹波市 市島 鴨庄小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%	黒	40%以上
5～10%	濃灰	35～40%
10～15%	中灰	30～35%
15～20%	薄灰	25～30%
20～25%	縦線	20～25%
25～30%	横線	15～20%
30%以上	白	0～15%

※年少人口比率：15歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65歳以上人口が全体に占める比率

X

地区カルテ（丹波市 市島町 ^{みわ}三輪小学校区〈美和〉）

集落数	人口	世帯数	世帯あたり 人員	年少人口比率	高齢人口比率	備考
9	1,861	650	2.86人	13.2%	27.4%	H23.3.31

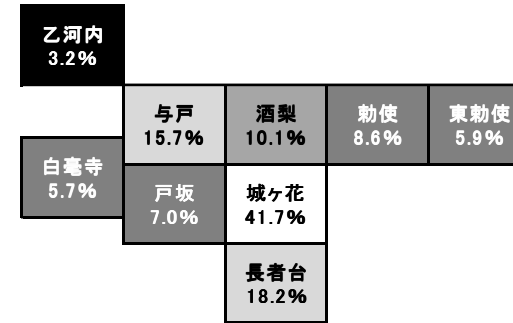
■校区の概況

概況	位置・交通	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市市島町の南西部、五大山麓の扇状地に開けた、山と田畑で構成される地区。 JR 福知山線の市島駅を通じて福知山・大阪と連絡。 舞鶴若狭自動車道・春日 IC に近く、車によって広域とも結ばれる。 東経 135 度 6 分、北緯 35 度 11 分
	成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> かつて黒井城の出城があった。明治以降は東洋一の珪石の産地として栄えた。 三輪の名前は、奈良の三輪大社に由来。 戸坂、白毫寺、乙河内、与戸、酒梨、勅使、東勅使の 7ヶ村が合併し、美和村を経て現在に至る。長者台住宅団地、城ヶ花市営住宅が次々にできる。 (S30 市島町、H16 丹波市)
	産業・生活	<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業の農業は、稲作を主とし、時代とともにほぼ兼業農家化している。かつては地域の山林を背景に、林業や東洋一の珪石の産地として栄えた。 美和地区は早くからほ場整備事業（農業構造改善）を実施し、農業の機械化を進めてきた。また地区内には有機農業を志す I ターンの農業者が多くなってきている。
資源・施設	自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> 五大山（569m）と登山道、美和川、竹田川、田園風景 丹波ウグイスの森自然公園（芝生広場など）、グラウンド（長尾池埋め立て）、テニスコート、ボタン園
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> 三輪神社（与戸）、白毫寺と九尺藤、臨川寺（乙河内）、乙河内観音堂、酒梨薬師堂、留堀城跡（酒梨城） 勅使愛宕神社、与戸観音堂、戸坂黒井越え坂の右側高さ 6m の不動滝 永郷池（昭和 16～25 築造）、
	公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> アスコザパーク TANBA（宿泊・食事付き公認サッカー場）、森のひととき（キャンプ場）、長尾テニスコート、美和コミュニティセンター、三輪小学校・幼稚園・保育園
地域づくり	主な組織と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 美和地区自治振興会を中心に、地域が一体となった取り組みを実施している。美和ふるさと百貨店、喫茶とんぼり（地区民の憩いの場）の設置、スポーツ 21 との連携で美和地区スタンプラリーやアグリフェスタ美和、「白毫寺の藤祭り」、「里山ふれあい事業」散策路整備、アスコザパーク TANBA（サッカー場）の誘致など 営農組合（任意）による遊休農地活用、特産品開発（里芋）、酒梨のグループによる里山整備などの取り組みがある。 地域づくり事業として、40～50 代による「活性化推進委員会」を設置し検討中
	主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 人口の増加・若返り（I ターン等への空き民家活用、地域の行事・仕組みの見直し） 自治振興会の活動の推進（次世代リーダーの育成、楽しめる地域づくり活動など） 農業の再生（営農組合等による遊休農地の耕作、特産品の開発、次世代への技術の継承） 森林の再生・活用 幼稚園の跡地利用
備考	2011.12.28 作成	

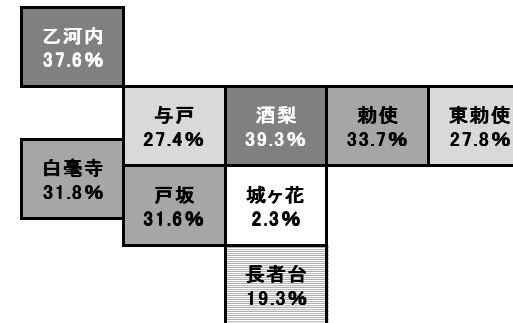
■高齢化等の状況

丹波市 市島 三輪小学校区

■年少人口比率(H23.3.31現在)



■高齢人口比率(H23.3.31現在)



※年少人口比率：15 歳未満人口が全体に占める比率
 ※高齢人口比率：65 歳以上人口が全体に占める比率

凡例

年少人口比率	カラー	高齢人口比率
0～5%	黒	40%以上
5～10%	濃灰	35～40%
10～15%	中灰	30～35%
15～20%	薄灰	25～30%
20～25%	縦線	20～25%
25～30%	横線	15～20%
30%以上	白	0～15%